

8-15-47

図 書 番 号
資 料
No. 36 n19

昭和三十八年十月

婦人少年室協助員全国会議出席者レポート集

労働省婦人少年局

目

次

一 協助力制度の充実化をはかるための方策

森谷 頌子 (千葉)	二 谷 ヨシエ (神奈川)	大塚 行雄 (長野)
魚井 さちよ (兵庫)	杉原 司朗 (鳥取)	青木 幹子 (大分)
高橋 ミチ (宮崎)		

一 地域における婦人労働問題 職業問題

田中 直子 (福井)	沢田 富之助 (愛知)	長岡 祥子 (滋賀)
出口 ミツ子 (島根)	平野 美貴子 (広島)	竹内 恒天 (徳島)
島田 カズエ (愛媛)	見城 十代 (福岡)	家永 忠雄 (佐賀)
上小鶴 マツエ (鹿児島)		

一 年少労働者の余暇の善用に関する啓発活動について

高山 せい (青森)	小野 藤吾 (栃木)	斉藤 篤司 (群馬)
北村 士守 (埼玉)	阿木 武男 (東京)	東 平八郎 (新潟)
石田 貞 (富山)	米山 真照 (山梨)	道倉 乙緒 (大阪)
今村 ハナ (奈良)		
北岡 正郎 (高知)		

一、地域における婦人問題について

工 藤 登免野 (北海道)	山 本 忠 子 (宮城)	須 貝 フ ミ (秋田)
鈴 木 キ ワ (山形)	村 上 束 (福島)	石 垣 美 根 (茨城)
浅 野 綾 代 (石川)	石 上 き み (静岡)	伊 藤 了 懐 (三重)
稲 葉 綾 子 (和歌山)	吉 永 寿 美 子 (岡山)	天 野 ヒ デ 子 (山口)
綾 フ サ エ (香川)	佐 々 木 ナ ツ (長崎)	泉 み ほ (熊本)

協助員制度の充実化をはかるための方策

協助員制度の充実化を計るための方策

千葉 森 谷 頌 子

最近では経済成長に伴い社会も一応安定したかに見えるが、逆境による問題家庭も多い。特に働かぬばならぬ婦人が多い現下、協助員制度のPRが必要であり協助員こそ活動すべきである。なほならはせこれらの人達は良い相談相手を求めているからである。協助員の買賣向上並にPRについては、一協助員研修・調査・見学・行事等への参加、二協助員相互の協力、三社会資源の活用、四協助員の自覚等が重要である。とくに協助員であることを誇りに思う私はそれを痛切に感じてゐる例がある。去る九月別府市で開催された全国民生委員総会第五部会へ民生児童委員は婦人福祉活動など推進したらよいが、こんな発言をした。私は千葉県協助員と転落した婦人との懇談会に出席したことがあった。その婦人は民生委員に生活の相談に行ったがはかどらず二児を抱えて困窮したあけく、売春で生計を立てたことがあったという。その婦人のせつは詰った相談に温情をもつて当り、物心の適切な措置を敏速にすれば一人の転落を防げたかも知らない。私は協助員としてその会合に出たればこそ知り得たことからから協助員としての役割りがよく分つたのであった。このことを部会で発表したが、これは協助員制度の大きなPRではなかつたかと思ふ。協助員の任務は地味ではあるが私共のとりあけてゐる問題には生々しい幾多のケースがある。よい相談相手となることが協助員の役目ではないだろうか。制度の充実化と活動の充実化があつてはじめて協助員として諸問題解決、文化の向上に前進することができると思う。

協助員制度の充実化をはかるための方策

神奈川 二 谷 ヨシエ

当時の渡辺室長の登路はるはるの御訪問に恐縮し、協助員をお引き上げはしましたが、その仕事の範囲は広く、特に封建性の強い私共の町では、なかなか私如き者の入り込まずきはありませんでした。

幸いに、民生委員もしておりしたので、連絡協議会には必らず出席して、その話題から少しでも協助員の仕事に關連するものを把もうとしました。三人の子供が小学校から中学校、高等学校と進むにつれ、夫々の学校でPTAの役員を引き上げ、そこから何らかを得ようと思いました。しかし、労働問題は帰する所は経済につながっていますので、中途半端な解決しか出来なかつたり、又手をつかねて居なければならぬような場合もあり、心苦しく思つた事も度々ありました。たゞ年少労働者の作文募集や、新聞配達少年の調査等の折には、学校側の協力を大変嬉しく思いました。

昨年の三月の始め、市の年間行事を組む社会教育委員会に出で居りました時、講演会を開いても集る人が少いので、何か有意義な使い方をしたいという話題が出ました。その折、中央や各地では毎年婦人会議が開かれるが、相当の地域性から、出席する者は殆んどない状態なので、当市で婦人会議を開きたい旨を提案しました。幸いに全員の賛同を得て、教育委員会後援で婦人少年室主催の会議を開く事、会場その他の準備は市の教育委員会ですべて頂く事にしました。早速当市に住む他の協助員の方と相談して、各婦人会、農協漁協婦人部、日教組その他の労組婦人部、未亡人会、読書クラブ、友の会等婦人団体のクラブに呼びかけ出席を依頼しました。こうして昨年約五十名位の集りの第一回婦人会議を開きました。室長の御出席を頂き、協助員制度の理解と協力をお願いし、婦人会議のテーマについて話し合いをもちました。僅か五十名位ですが、その会員への伝達する事を思い、又当市内に多数掲示したポスター、市の広報紙でのよびかけ等を考えると、大変効果があつたように思いました。

本年は昨年同様開催し、昨年以上の出席者を得ました。こうして毎年婦人会議が当市でも開かれる事になりましたが、これは婦人会議そのものの他に、協助員制度を理解して貰い、充実していく上にいさゝか効果があつたのではないかと、喜んで居ります。然しこれも問題の提示をした程度でありまして、そこが

らは、又むづかしい問題がいろいろ出て来る事と思ひます。もつともつと人間としての勉強をしてこの制度を活かして、社会を明かしくする為にお役に立ちたいと思つております。

協助力員制度の充実化をはかるための方策

長 野 大 塚 行 雄

婦人少年室ができて十数年の長い年月が過ぎましたが、働く婦人や一般大衆のどれだけの人々が婦人少年室の名を知っているだろうか。ましてや協助力員制度に至つては、ほとんどの人がそんな制度があつたのか、といった調子で理解などなく、誠に心細い次第です。

最近青少年の不良化が問題になり、私の住む市にも青少年問題協議会が今春組織されました。私は勤めの関係から参加しました。他の方々は民生委員とか、保護司会とか、PTAとか、区代表といったようにそれ／＼の立場から参加しているにもかゝらず、協助力員の名はどこにも見当らず。市の係に話してもそんな制度があつたと思ひ出させる程度で公民館報に掲載してもらいPRに努めてみても、一向に成果が上つてこない状況です。勤め先の関係で相談はありますが、協助力員を知つて来られる方はほとんどありません。

十数年を経ているにもかかわらず協助力員制度が婦人の間に理解されていないのは組織そのものに問題があるように思われます。

最近ほどの職場でも相当数の婦人が働いているので、その数に応じて各職場に協助力員を委嘱し、働いていない婦人のためには、一般から地域を考慮して委嘱する方法をとり、新聞、テレビ等を通じて中央からPRするようにしなければ、自ら足を運んで説明し、婦人の協助力員などは、逆に相まから痛くない腹をさぐられる結果にもなりかねない状態です。

又、仕事の面では民生委員と重複し、こちらで処理できるものは良いが、他は相談内容に応じて橋渡しをするだけに終る事が時々あります。

私の場合は他の協助力員が年配の婦人であり、私は若輩ですので気軽に連絡がとれ、問題と相手によつては、こちらが男がよい場合と、女の方がよい場合とあり、適宜交替で相談に応じ、又関係者に接渉できるのでやりよく、今後協助力員の数を増す場合とか、仕期満了の場合に、男女の割合、年令等についても考慮する必要があるように感じます。

終りに、協助力員の仕事の範囲が漠然としていますが、もっとはっきりさせなければ、何時までたってもあいまいな協助力員制度に終つてしまふのではないのでしょうか。

協助力員制度の充実化をはかるための方策

矢 庫 魚 井 さちよ

『婦人少年問題の相談相手として労働省兵庫婦人少年室協助力員に委嘱された魚井さんは、漁村に多い長穴学童の実態調査に乗り出した。魚井さんは三十三年七月一日淡路島で、もう一人の川瀬一子さんと共に委嘱されて以来、未成年者の不良化防止や悩める婦人の問題と取組んでいる。魚井さんは淡路地区漁協婦人部連合会長、又地元婦人部長と元民生委員の経験を生かして相談に當つており、漁村にかなり多いと見られている長穴児並びに不就学児の実態を徹底的に調べ根本的な対策をしてゆきたいとすでに各町村へ、実情報告方を依頼し、又個人的にも学校や家庭を訪問し、不就学児の解消をめざしているが、まだこうした制度が、一般に知られていない為に相談に来る人も少いと云うが、魚井さんは「他人に話せぬ事、身の上相談、その他何でもよいから、出来る限り皆様の助力になりたい」と一般の人々の協力を呼びかけている。以上は三十四年一月四日地元新聞がPRしてくれた一部であります。この様に機会ある事に宣伝につと

め 協助員の存在をPRし、その利用を願っている。私は豊家に生れ三人の子供のある漁家に嫁いで二十余年、子供達ももう一人前になり、それぞれの生活を営んで居り、私は主人と二人零細なる沿岸漁業を営んで居ります。総ての面から理解ある主人の協力を得て感謝しつつ、社会奉仕の出来る現在の私である。私達の地域は一市二郡からなる周囲一六〇km、総人口二十万の淡路島である。三十五年度には二名の協助員が一連六名に増員された事によつて一層PRが出来る様になり、各々の役職を利用し、一般社会に知られるる婦人、少年、空の所在や協助員の存在を宣伝したのであります。幸にして協助員の仕事に理解が深まり、昨三十七年度からは一市二郡から助成金を受けるまでになり、地区会を持つごとに諸団体関係機関の協力が得られる様になりました。二の様にして私達六名が一体となり、出立芳基署を中心に相互の連絡を密にし、一件でも多くの悩める方々の相談相手となれる様努力を重ねております。あくまでも仕事をやる上からは誠心誠意、事に当らなければならぬ事は論を待たないと思ひます。

協助員選考基準に定えられるよう、一歩一歩前進し、やがては一般社会の人々から金や物品では味う事の出来ない人間関係の尊さを知っていただく事を目標として、専心つとめる考であり、ます。

協助員制度の充実をはかるための方策

鳥 取 杉 原 司 朗

最近、各種適応事業場に、夫々協助員が任命されていることは、大変よろこばしいことである。然し、残された分野はより多く、暗い谷間の人々は余りにも多い。

協助員制度は、婦人、少年行政が、広範に浸透するため、民間の協力、援助を得る制度である以上、その充実をはかる方策としては、広く協助員を求め、協助員をして、常に啓発、広報活動を忘れず、正しい理解のもとに、熱意をもってその機能を十分發揮せしめるよう、これが強化、促進方を講ずることにし

ぼられると思う。

具體策として 残された分野の開拓と啓蒙 として 協助員にその人を導くために

ノ この制度の浸透 啓蒙のために 協助員をあらゆる適応業務 組織等 広範曲にわたって並び、その担当地域内 又は業務 組織内が 適切に把握できるよう配置する。

2 協助員各自がもつ特色を生かすために 常に各々の業務 又は組織の中にあつて その婦人年少者にとつて最も身近に感じ しがも正しい協力者が得られやすい立場の人を選ぶ。

3 進んで民間の協力を得 その能力を十分に發揮せしめるためにも 協助員の仕命にあたつては 極力現協助員の意見を尊重し 相互の誤解 反目等がおきないよう配慮し 横のつながりを強化する。

以上の方策を実現するにあつて 最も障害となるものは 予算面の裏付けであると思われるが、然し賢明なる当局の 十分なる努力によつて 輝かしい成果を期待してやまない。若し早急に実現不可能な場合は 協助員に与えられる諸経費を削減 又は削除しても 恵まれない人々のために 充実のための経済的裏付けを講じて頂きたい。

これがため 若し必要とあれば 協助員の再編成も止むを得ないかと懸念する。

この制度を十分理解し 協力して頂くだけの努力さえおしまなければ 市井には まだく、沢山の協力者が潜在しているものと確信する。

協助員制度の充実をはかるための方策

大 分 青 木 幹 子

昭和三十二年に協助員に任命された私は今更ながらはづかしく思います。赤香防止法以来 出来得るかぎり関係団体は云々までもなくあらゆる面に協助員制度についてPRを致して参ったつもりであります。

当市二名の協助力員では思ふような市広い活動が出来ず常に残念に思ひます。婦人少年問題は足元にあまりにもたくさんころがつています。これで良いはうはありません。しかし相談に來られた婦人はほとんどが私を民生委員だと考へて來訪される事でありまゝ。東洋のナポリと云われる別府市で転落寸前の婦人が故郷の津又見市に歸り私に相談をかけたことについて、もへ別府市の婦人相談所のある事を知らず、この制度が転落寸前のところを歩いてゐる女性達にはまだく浸透してゐない事を痛感致しました。私は早速、別府市の相談所や室長に相談の上、しばらく身づらをおづけました。此の女性の前歴から問題はなかり法務局へも出向く結果となりましたが、当時の法務局長へ支所へも此の制度には全く暗くて、貴女が協助力員とされてゐた事が此の女性を殺さずにすんだと云つて大受よろこばれました。その後、市役所の福祉事務所に行つても懸命にやつて來てゐますもの、協助力員の立場は地域に於ても非常に弱く、市役所の福祉事務所に行つても懸命にやつて來てゐますもの、警察の方には私達から進んでお願いしてあります。此の制度の充実化をはかるための方策と致しましては、先ず地域の役所の關係課へ足元暗しから此の制度について説得しなければ、地域に於ての活動はわづが一人二人の協助力員では非常に弱いといふことです。一多忙だからの一言ではねられる事もたびたびでした。福祉員の人々に相談して市広い行事を考えましたが、福祉員さん方はみな大変多忙な方々で何ら実行にうつすひまもなく見送りました。これらの点についても社命に問題があるのではないでしようか。充実化をはかるには、やはりこの制度について懸命にとりくんでいたゞける時間のよゆうのある方でないと、社会的信望があまりにもありません。

協助力員制度の充実化をはかるための方策

宮崎 高橋 ミナ

今年には協助力員制度が発足して十年を迎へる全國二五〇〇名の同志を得てゐることは眞に意を強くし、その

一員として今會議に臨むことが出来る喜びと共に尚一層 社会公共福祉のため寄与する覚悟を新にするものである。

委嘱を受けて日も浅く、關係機關をはじめ一般社会に理解されることは容易でなく、まして地域に於ける行政の浸透はなかく、むづかしい。けれど現在の社会情勢にともない婦人及び年少労働者の保護、または福祉増進など考之れは決してゆるがせに出来ない大切な仕事であり、殊に一般婦人問題の相談などとり扱つてみると、如何に此の仕事が尊い使命であるかをしみく、痛感する次第である。

協助力制度の充実化をはかるための方策として第一に考えられることは

ノ 年少室の予算拡充を提案したのである。市区町村数に対する協助力の配置は六〇%にすぎないとの事であるが、当県に於いては三十四名の協助力では担当区域は相当広く各地域に浸透させることはまだまだ容易ではない。各一町村に一人の協助力を配置できるような充分な措置が必要である。

2 中央に於いて年一回の全國會議を開催されることは真によろこばしいことで、この制度普及のために、も大きな成果であると思う。次の段階としてこれを地方別に開催され各県より数名の参加者が出席できるように望みたいものである。

3 全国協助力連盟会をつくり、それへの担当区に於ける活動情況、或はお互の情報交換の場をつくり、じつかり態勢を整える。

4 各県内協助力の研修及び講習會等を開催し、各關係機關や団体との連絡會議をもつようにするため各室に研究費の予算を県の予算に組むようにしたいものである。

当県に於ては、毎月第一土曜日を例会とし、各機關との連絡による調査を提出している。その他民生委員會、児童福祉委員會との連絡會議も度々開催して婦人問題、未亡人の職業対策などいろ／＼と研究もしているが、協助力制度の充実化をはかるためにはこれに伴う予算など十分考慮しなければならない。地方行政の中に一貫した体制を織りこむことも一方策ではないだろうか。

地域における婦人労働問題、職業問題

協助員である私が相談を受けた一例であるが、高等学校を出て兵庫県のある個人経営の電機工場に、事務員との約束で就職した娘さんが約束は違つて隣接せるその雇主の住宅にお手伝いさんとして使われた問題は、この時から起つてゐるように思う。

一年程経過した時、地方公務員であつた父親が職務上事故をおこし、一家は多額の負債を背負つたため家の再興を計る可くやむなくその家よりひまを取つて帰省してゐたところ、最近の都会の手不足から又元の雇主なるものが是非にと迎之に来た時、家の経済状態をよく話したところ、この雇主は好意的に出て十万円を融通してくれて、娘さんは又その家のお手伝いさんになった。この時の条件は、この娘さんのボ「ナ」の前貸との事、又これによつて本人を束はくするような事はしないとの事、むりの行かぬ程度に親元から何年でもががたつて返済してくれらうい、色々と好意の羅列であつた様です。

この娘さんは一生懸命に働き、すくない給料の中から貯金をしたり、或は又衣類など整へ、柳コオリに、はい程のものを持つていたらしい。この柳コオリは娘さんにとつて命でもあり、愛情そのものでもあつた。こうして二年程働く中に娘さんにある縁談が持ち上つたのを機に、娘さんの貯金四万円と実家から一万円計五万円を返済し、借金は序々に返済方を約束してひまを申し出たところ、先方の云うのには今そんな縁談や見合いどころではない、早く残金五万円を返済願わねはこの娘さんの荷物は返す事は出来ない、と娘さんの大切な財産である柳コオリを差し押さえてしまひ、母親が何回交渉しても、夏物だけでも半金でお引渡し願ひたい旨や、毎月少額でも御返済致す旨お願いしても、言を左右にしてどうしてもうちがあかす困りぬいて私のところへ相談に見えたためこの母親と同道、地域の婦少年室長及び婦人相談員の方の御力を拝借した事があつた。然し問題は、家事使用人として基準法適用外であつた為問題の発生した兵庫県の

婦人少年室に連絡をつけて頂き、この解決に御尽力頂いたが、結局先方の言う通り耳を揃えて現金五万円を返済して件の柳コオリを受取ったのであるが、これが理由ばかりではなかったのかも知れないけれど、この娘さんの縁談はお流れ、娘さんに寂しい思いをさせた事は事実であった。

然し、今どき働く娘さんが親のギセイのため結婚も出来ない、とすれば、昔の赤線の女と同一ではないが、もっと家事手伝いさんの人権をみとめて上げてほしいものだと思います。そして、もっと明るい人間関係であつてほしいと願います。家事使用人であるが故に基準法の適用も受けられぬ様な不幸な事件があると、するのならば、この娘さんばかりでなく、多くの若い働く人々の人生觀を大きくくつがえすのではなからうか。

關係方面から今後の行政に大きく考えて頂く可く働きかけた。

地域における婦人労働問題・産業問題

愛知 沢 田 富之助

私は愛知県の中でも特に繊維物中心の繊維産業地帯である一宮地方で協働員の役目を頂いている關係上、自然対象となるのは北海道から沖縄に至る四十七都道府県からこの地方へ就職される中学校卒業の独身女性を中心とする若年労働者です。

現代っ子と呼ばれて明朗な若い新人を迎えては美しく成人したその入産を夫々の出身県に見送る毎年の繰返しに感激と哀愁を感じている中は何も気付かなかつたのですが、繊維産業に働く女性の胸の裡々々人知れぬ悩みが深く根をおろしていたのでした。婦人少年室協働員生活の中でその入産と語り合いその生活の眞実に触れて始めて知った彼女達の秘密でした。

数名の若い女性が名古屋駅で下車する時に、「こんなにがたまって歩くと女工さんと間違つたね。」うふ、

「私、外出する時はなるべく一人で出る様に気をつかっているのよ、多勢で連れ立って行つて街で女工に見られるのが嫌なの。」

と真剣に語る女性にぶつかつた時、思わず先日の中中の会話を思い出して暗然としました。彼女達は、更に次々と訴えました。

A「この間ある奥さんが『この頃の女工はきれいなものを着るようになったねえ』と話しているのを聞いたけど私達はどうして美しいものを着ていけないの?」とか

B「私達これから結婚したいと思う男性に『女工あがり』と思われたくないの。』とか、これら訴えの中には彼女等自身が社会へ出た時から持つてゐる一種のひがみと云つたものが感じられない事はないが、日常語として使われる「女工」と云う名称の中に一種の蔑視感が漂つてゐる事も否定できないでしょう。人間が機械文明を見出して以来、女性や年少労働者が被搾取階層を形成した時代の産物として「女工」が正当な人間の評価を受けなかつた事だけは歴史的事実として明らかです。

今や新しい産業界には明るい労使關係が確立して人身売買もなければ、肉体的諸条件を無視した「苦役」もない。にも拘らず女工と云う呼び名だけが旧時代の感覺を温存したまま残されてきた事は近代社会として余りにもうかつな事ではなかつたでしょうか。新しい時代の産業入である彼女等の幸福の爲にも現代社会の民主化の爲にもその内容にふさわしい呼び名を探しあて新しい産業女性像を確立する事の社会的意義は真に高いものと云わねばならぬでしょう。

繊維産業の多い愛知県では一宮地方以外にも同様の問題をかゝえた都市が数多くある事が愛知婦人少年室の協助力代表者会議でも明らかにされました。協助力会は「女工」の呼び名を社会的に抹消して明るい呼び名を創造する作業と平行し、働く女性の人間形成の作業を促進する事を申し合わせました。

一宮地方においては現在、市、町及び各種団体並びにそれらに所属する事業場毎に官民をあけて若い女性の為に勉学の機会を準備しています。

曰く「青年のつどい」

曰く「エナウェット講座」

曰く「教養学級」

曰く「未来の主婦学級（ヤンタレデイン）」

等々。そして、その中に盛り込まれた内容はスポーツ、サイクリング、フオーグダンス、ハイキング、海の家山の家、座談会、音楽会、映画会、実習（洋裁、和裁、ミシン、手芸、生花、茶道等）、講演会（男女交際、話し言葉、結婚、生理、結婚と法律、女性と家庭生活、家計のやりくり、買物の仕方、訪問着の着付け、洋裁とアウセサリー、旅行の智恵、お金のつかい方、芸術鑑賞、家庭と安全等々）等の集大成です。しかし、彼女達が「講座」とか「学校」とでは親しみにくいと云うので「○○の集い」「○○スクール」等とその名称にまで気さくはる始末です。これらの行事が何回となく積み重ねられた上に「講座」とあっても「学校」とあっても彼女等が何のためらいもなく利用する様になった時、始めて「女工」と云う名がこの社会から消え去る時でしょう。

しかし、今日の社会はまだまだ不用意に「女工」と云う言葉を吐きちらしています。彼女達の心を無惨にも傷つけている事も知らず路上に印刷物に、時にはマイクに乗ってそのあざけりを小さな肩にふりそそぎます。叫ぶ事を知らない彼女達はじつとその侮蔑に耐えて、今日も明日も、職場や学級に寂飲の詩をうたうのです。私は協働員の一人としてまだ、為すべき事の如何に多く埋もれているかを反省させられながら働く人の幸福に役立とうと決意するのです。

今日も女工と呼ばれて来た人たちの中からその壁をつきくづして一歩前進しようとする人達が何人か教養学級に出る事でしよう。

保育所の保母の実状

滋賀 長岡 祥子

最近婦人の職場進出に伴って、保育所に子供をあづける人がふえて来た。

当社は人口五万足らずの小都市で現在、十ヶ所に公立保育園が設けられている。定員は全部で七百四十名、保母は二十八名である。

その中の一ヶ所を取り上げて、実際の状況を述べると、園児の定員百二十名、保母四名へ園児三十名に對して保母一名といつのが、厚生省の最低基準となつてゐる。その他の職員として、園長、調理士一名、用務員一名がゐる。現在園児は百十名である。

組分けは年長児へ即ち来年少学する子供で今まで一年乃至二年通園していたもの、三十一名、一年保育児二十三名、二年保育児へ四才児、三十九名、三年保育児へ三才児、二十四名の四組になつてゐる。尚二年保育、三年保育の組は人数が多すぎるため、保育の上にいろいろと困難な問題があるので、これを三組にしたのであるが、保母の人数に制限があるために思うにまかせない状態である。

保育時間は八時半から三時までであるが、親の仕事の関係で、朝は七時半頃から、夕方六時半頃までゐる子供がある。そこで四人の保母が交替で一人ずつ早番として七時半までに出勤し、一人が六時半まで勤務する必要が生じる訳である。保母の勤務時間は一応、八時半から五時までという事になつてゐるが、普通の職場では昼食のため、三十分から四十五分の休憩時間がある訳だが、小さい子供達から目を離す事が出来ないため、子供の食事の世話をした後大急ぎで食事さし、休み時間を取る事は出来ない。その上一日おきに、九時間半の勤務をしている事になる。大体以上のような次第であるが、保母の仕事は活動の激しい幼児を相手の仕事であるため、精神的にも肉体的にも相当の重労働である。それに対する給与の面を

次に考えて見たい。保母は高校卒令、短大の保母料を出るが、同率の学力を持つて保母資格を取得するかしなければならぬ。比較を簡単にするために今年度新採用の初任給を取り上げると、本俸一万一千四百円、諸手当を含めて一万二千二十円、その中から恩給納付金、健康保険、所得税、職員組合費等を差引かれ、手取りは一万一千円である。現在当地の中小企業の中卒の女子工員の初任給は平均一万七、八百円である事を見れば、比較して保母の給与が余りにも低いことが肯かれるであろう。重労働、低収入のために保母のなり手が無い反面、保育所の必要性は益々増している現在、今後何等かの方法によって給与の面が改善される事を希望する次第である。

地域における婦人労働問題 職業問題について

島根 出口 ミツ子

一 保育所づくり

かつては半農半漁であつた私の村は、漁業不振が相次いだ為、青壮年の大半が村を離れ生活の道を他に求めるようになりました。

こうした状況はいきおい婦人に過重な労働を強いる結果となつて、幼児の保育も次第におろそかになつて行きました。

このような時、幼児の水死、輪禍が続出したので、保育所設置を要望する母親達の声はだん／＼高まり、これがきっかけとなつて昨年五月収容人員七〇名の立派な保育所が建設されました。

然し、これを実現させるには色々な困難が伴いました。先づ、その主なものとして、(一)婦人の声を村政に反映させるには、地域における婦人の地位はあまりに低く、婦人自体も又その知恵に乏しがつた。(二)貧弱な村財政のもとで事業計画に盛りこむことの困難

回 国 県の補助対象となつたが建設地の選定にあたり 部落的感情がはさまり解決を困難なものにした等があげられますが、これを實現に移す為に (1) 母親達の声を婦人会で取りあげ 村議会に陳情した、(2) 婦人会の幹部が建設委員に加わり建設の促進に努めた、(3) テレビ オルガン すべり台等二十数万円の寄付をする事として設備費の軽減に役立たせた。

以上の事については、二七〇名の会員が一致団結して建設の實現に邁進しました。

このことは私が多年婦人会の責任者として、又助産婦という業務を通じて多くの母親達を知り、常に話しかけるといふ立場にあるので、問題をとり上げおし進めて行く上に非常に好都合でありました。

現在園児の数は定員以外に、尚希望者を残さねばならぬ程の繁昌振りですが、園長さんはじめ保母さんたちは薄給に甘んじながら保育に専念しています。

初任給七千円に満たぬ保母さんたちの月給に付いては、機会ある毎に村当局へ改善の方法を持ちかけてはおりますが、問題は色々残されています。

母親達は勿論それらの仕事にはけみ、賃仕事にも従事できるようなつた為、不自由であつた小遣いの問題もだんく解決して行くようで、これが又うれしいことの一つです。

働く婦人と有鬼の問題

広 島 平 野 美 貴 子

「協助力員とは何をなさるお役ですか」とはよくきがされる言葉である。幸い 広島では室よりあらゆる機会を通じて 関係方面へアツピールしていただいているので、最近少しは理解して下さる方ができたことは嬉しい。

先日放送局より私と他の協助力員と二人で協助力員の在り方やら実例放送をやつた際、アナウンサーとの対

設の時でも、働く婦人と育児の關係で、いかに多くの職業婦人が悩んでおられるかその実状もきがされ、これは今更新らしく生じた問題ではないけれど、どうにかしなくてはと、私の胸に迫ってくる思いが強くなった。たとえ小さくても町々の善意ある厚意で留守中の子供の教育をみていただけたならとの声もでた。放送後も知人よりの早速注文が出て、今迄は協助力員制度を知らなかったけれど、今後いろいろ困っている問題をもっている方もあるからその節はよろしくとの依頼もあった。他の協助力員とあう度、又この問題が話題の中心になるのであるが――

九月二十七日広島県下協助力員会議が開催された際、先仕権制度の確立も大きくとりあげられたが、これは未來の理想であつて、目下現在、職場でのなやみは、託児所のない事業場での母としての深刻な育児、教育の問題である。地域婦人会との手のつながりはできないものかと、今運糧々苦労もしてきたけど、無力にして実現できなかった。

会議終了後「働く婦人の家」が広島には既に出来ているのに広島県ではまだ実現できないことをきかされ、町の小さな方々の善意にすぎるにしても費用の面で大きな壁にぶつかっている現状なので、これは協助力員今年度の活動として是非広島県でも「働く婦人の家」と、それに伴う託児施設の実現に、皆の力を結集しようではないか、これが完成されれば、働く婦人の大きな光りともなり、又、これにつながって路も次第に拓けるであらうからと、陳情をつづける方法など話しあった。

幸、本年は私が全国会議に出席の幸運を与えられたので、既設の県の実情もよくきいてそれを参考として、帰広後は皆様とよくはかつて案を練り、これが実現に努力したいと私の心には深い大きな決意が盛り上つてきている。放送局の女性アナもこの問題には家庭で切実に悩んでおられるので協力することを申し出てください。希望をもって今後この問題にとりくみたい。

昭和三十八年度婦人少年室全国協働員会議に出席するに当り協働員の一員として過去の活動の体験の中から二ツの問題を提起し会議の研究テーマとしてみました。

私達の住む地方は、四国の中心地で山県が肩を並べた山村地帯でありまして婦人労働者と云うよりむしろ農業を主体とし、その余暇利用による季節的労働者の多い地方であります。

特に最近男子の嫁がふ之氷田、養蚕、煙草を唯一の換金作物とした経営でありましたが、五反百姓に寄せる風波はきびしく経営経済不況は必然的に出嫁ぎの益を聞いたのであります。

そうして取り残されつつある農業は主婦の頭上に覆いかぶさり主婦農業に移行しましたが、それもつかの間、科学機械の進展により作物栽培の省力化から来た影響と同時に昨年より国道三十二号線の五ヶ年計画に依る改修工事、又地方道の改修等建設事業による大巾な労力の要求に刺戟を受け主婦の就労がとみにふえてまいりました。そうした省力化から生じた余暇に束のまにいきおい主婦に押しよせる過重労働と家族関係について問題が生まれたのであります。つまり、主人は他県へ出嫁ぎ、主婦は日雇い労働、子供は一日中子供だけの生活と云った環境の中で特に最近では国の大きな柱とされた人づくりの問題が出る訳であります。

しかし、働く婦人の子供に対する入づくりは全く無縁の様な状態であります。こうした問題につき私も家庭を訪問し御意見をうかがってみました。最近の生活改新と消費革命にともなうて生活構造は大きく変化をもたらしつつありますが、一方では機械化合理化に依る余暇の増大がありながら、他方では経営経済の行き詰りからくる労力不足等のしわ寄せからくる婦人の過重負担から基因する処が非常に大である事を知らされました。

又子供はおろか婦人自体の地位向上の問題にしても文化的な生活の近代化にも遅れ、文化団体、娯楽機関

寧ろなく婦人自らの自主的集團もごく一部分に限られた婦人会活動に他ならず。たゞ一日一日を平凡に「働いて金」を、全く金のために生きぬいているように見受けられるのが実態であります。こうした環境下に於ける子供の空は余りにも可愛想でなりません。

一日中「お母さん」と呼ぶ事が何度もなく、夜は昼の疲れからすぐ眠り、朝は子供は学校へ、そこで主婦は労働にと云う事で全く楽しくあるはずの家庭が宿泊所のための家である感じすらいたします。

ある主婦は「子供が毎日どんな生活をして居るのか、学校から帰ってどんな事をして遊んでいるのか、何一つ面倒をみる事が出来ないのでは可愛想でなりません。この上は私達の様な最低生活で夫婦揃って働いてもまだ食っていけない様な生活に苦しんでいる人に、何等か政治の力で愛の手を」となけいておりました。

第二の問題として、中小企業、家内工業、町村役場で働く若い主婦問題を拾ってみました。

A子さんは、町村役場の吏員として働き一昨年隣町に結婚してその隣町から通勤するようになりました。その内妊娠して身重の状態となり自分自身の衰弱と苦痛を感じるようになり、同僚からもA子さんの体を心配される程に成っている事を聞き込み私は早速A子さん宅を訪れ、A子さんの身上について相談に来てみました。本人自身働く婦人とし妊婦の保護につき全く無関心である事を察知いたしました。

生理休暇、産前産後等の休暇等は勿論の事、過去に於いても先輩達がそのような経過を得て毎日休む事なく出勤する事のみが町民の公僕としての務めである事に専念していた訳であります。又疲労の問題では結婚前は近くから親達の世話を受け自分のみの仕事であったが、他村へ結婚し一家の主婦として嫁の座としての生活に入り家庭内では新しい時代に立脚した近代カラーに脱皮できない山村とあって、朝は出勤迄に封建的な家族制度による嫁の座を務めての出勤、帰宅後も同様家族より一番遅く就寝、此のような悲愴覆の積み重ねからと同時に通勤路程が毎日十五料余りもある。

田舎独特の凸凹路、その上歌の文句にもある様な田舎のオンボロバスの激しい振動による処からの疲労も見逃す事も出来ませんでした。

又同僚の女性の間でも生理休暇、産前産後の休暇等は考へもせずむしろはすかしい行為である様に受け取っていました。

こうした問題が他の職場でも同じ事が云えます。まだ前記問題より日雇労働者のこれ以上の苦しい経験も聞かされましたが、日雇労働の場合は経済不況からくる問題、そしてA子さんの役場勤務の場合は家父長的な家族制度、封建思想の中から生じた問題、そして、又町村吏員の場合は人事の交流が出来ない為他町村に嫁いだ場合は退職か、そこから通勤するかと云う結果となるので、同じ吏員の間でこうした問題解決の方法をうったえていました。

以上こうした問題からしていえる事は「娘」「嫁」の座にある若い就労者と山村にある家庭関係で若い人の声として

「自由時間が取りたくても年寄りと歩調合わせなければとせず自由を束縛され、又電化したくても年寄りの考へが古くそれも出来ない。どうすればこうした問題は解決できるであろうか。又家族会話をして老入が若い人の考へを聞いてくれ家族みんなで共に働き、共に休み、共に楽しみたい。どうすれば家族の一員とし認めて貰えるであろうか？」と考へると、どうしても自分で働き得た報酬によって身の回りを調達し、小遣い銭に回したいとなはれていました。

以上あれこれと混線し下ら過去の体験から記録してみました。婦人問題は余りにも巾が広く根が深いために要領良くまとめる事ができませんでしたが、関係機関として協助員の方々の御助言、御指示を得ます。ならば最上の幸と考へます。

私の担当している大洲市は、県下で面積はいちばん広いが、人口は四万五千余の旧城下町である。工場といつても、昔盛んだった養蚕の名残りの製糸工場に加えて、明治乳業、綿布工場と、肱川木材産業があるのみである。

昔は、娘は十二、三才に製糸工場に働きに出ていたが、いまでは集団就職で都会へ流れ出てしまつて自然・中高年層が働くようになり、労働に対する考へ方も変わってきた。すなわち、働いて得た収入で生活をエンツョイする傾向がみえ、また、子供が成人した家庭の主婦は、職を求めて働いたり、社会奉仕に精出すようになってゐる。

私は協助力員として、働く婦人の福祉運動に際し、婦人労働懇談会を開いた。幸い商工会議所婦人部長、そして、主催を会議所、婦人部会及び協助力員会とし、費用は婦人部会より支出した。

働く婦人の側からは、保田、銀行員、集金人、商店主婦、洋裁店経営者、離役婦など。

助言者として、市長、商工会議所会頭、教育委員長等の出席を願つた。働く生活の実情について実態が話し合われたが、とくに保育について、時間、乳児の問題等、切実な問題が出た。乳児保育所、児童館が一日も早く設置されんことを望む。未亡人は、住宅と子供の教育の問題がもっとも切実である。母子寮を建て、安心して働けるよう努力しなければならぬと思つた。

これについて、市長ができる限り尽力しようと言われ、また教育委員長も協力しようといわれたことは、大きい収穫である。これはいい極みである。また、報道機関もよく協力してくれ嬉しかった。昔は働きに出たら恥しいとか世間体が悪いとか考へていたのに、産業も少ない大洲市で、働く婦人の問題が、このようにとりあげられたことは、協助力員として、やり甲斐のあることである。

しかし、産業が少いので、婦人の働く場は限られていて、普通の人では職場は探しにくい。婦人少年室が未亡人等の職業相談を始めてから、私のところへも、たくさんの方が相談にみえた。酒屋の瓶洗い、家事手伝いなど世話をし、また松山へも職の世話をするなどして、喜ばれた。

協助力として、働く婦人の福祉がいつそう守られるよう尽力しなければならないと考えている。

未亡人の職業問題の今後の対策について

福岡 見 城 十 代

日頃私が常に婦人問題について考えていたことの一端を簡単にあら述してみたのと存じます。さて戦後十八年戦争の爪跡も身近に受けました経験者の一人として私自身は、現在の婦人問題の一つに戦争未亡人が段々富年令層となり大きな曲り角にきたということでございます。

二十才代三十才代には兎も角子供達を一入前にする為に一生懸命に育てて生き抜いて参りました。しかしながら四十才代五十才代になりますと子供達も最早や大学在学中、或は就職して社会的には一入前になつてゐる状態であります。

私の地域の母子福祉会では、就職保証の問題も、対象年令を大学卒まで延長されるよう運動し、これがほぼ実現のはこびに至りましたことは大変幸せに思つてゐる次第でございます。

かように子供の問題は解決されておりますけれども、一方母親自体の問題は如何になつてゐるでしょうか。今後の存り方などについて考えて見ます時に決して満足すべきものではありません。

私の地域で開かれる婦人の会合で良く話されることですけれども、戦後は戦前の儒教思想から民主主義への推移、家族制度の改革によつて今や子供達は結婚しますと、直に別居生活に入るといふ時勢であります。「今度はいよく、一人になつて精神的にも物質的にも不安定な立場にたゝされ、一生死ぬまで勤がねばならない」ということです。

そこで母親達が自分自身で生き抜いていこうという身構へ、心意気は有夫の御婦人方よりずっと強いことと思ひます。

でも何分高年令層のための若い人、又は若い時の様に収入を得る筈はなかく、たやすくありません。又普通の方達が定年という時期に今まで子供をかかえて勤めて参りました婦人が、ホツとする暇もなく、又々働かねばならない人間の生き方に、婦人問題の一つの焦点があるのではないでしようか。一般の家庭婦人達が和やかに余生を築んでいらつしやる時期に、唯戦争のためとはいふながら犠牲になつた未亡人達が人生に對する行きづまりにあつてゐるということは、運命といへばそれまでですが、余りノーマルではないと存じます。

私達個人個人が地域で積極的に活動することは勿論大事ですが、これらの未亡人の職業対策問題をよくよく汲みとつて頂いて施策の面にあらわして貰いたいと存じます。

これでないといふ日本の戦争の傷跡は今なお治癒したとはいへないと思います。

産炭地域における婦人労働問題

佐賀 家 永 忠 雄

こゝに報告するものは、杵島炭砒を中心とした地域において実施されている炭砒女子の離職者対策事項並びに今後の問題点について、とします。

問題の大切な要項として次の点があげられます。

①家庭生活の安定化、即ち夫又は子弟による収入源があれば大半の問題は解決する。

②寡婦であつて生計主体者である場合が最も大きい問題となる。

③事務的能力者が少く、従つて技能的再教育を要する。採用先がその余裕を持ち、かつ積極的協力者であることが必要である。

石炭界は燃料革命の中で政府の国家的政策の線に沿つて、好むと好まざるとにかゝわらず急速的に合理

化を押し進めており、この離職者対策は大変な問題です。そこで杵島炭鉱を中心とする対策は、
の関連企業の設立及びその積極的な育成、

(2) 外部への積極的就職あっせん、

以上ですが、この対策の中の難問題は、なんといつても女子の就職であり、しかも多数の寡婦をかかえて
いることでした。そこでここにペリガンメリヤス株式会社を設立し、今年四月から事業を開始しましたの
で、その概略とともに、今後に残る問題を述べてみたいと思います。

杵島の要合理化対象女子入員 一四〇名

ペリガンメリヤスの女子入員

七〇名

31才 (平均年令)

受入人員

四一名

36才 (平均年令)

この他に男子離職者に代つて婦女子を採用したり、夫婦、親子、姉妹の共稼ぎの方法で採用した者十四名
平均年令三十一才、これでもわかるように平均年令が高く、最高五〇才であり、従来の仕事に比べて作業
密度が高く、作業習熟までの期間は苦痛を伴っています。特に分業化が徹底して、仕事は単調であるこ
と、長時間腰掛け作業で、かつ疲勞があるなどの問題があります。さらに、もとの炭鉱との賃金格差が
あつて本人には収入減となること及び会社としては、平均年令が一般の縫製工場に比べて約十才以上も高
く、習熟度が遅い上に平均賃金は高いという点に問題があります。

現在九州地方としては最初の工場であるため、關西方面からの輸送費及び土地建物等の設備投資が割安
にできる点で、採算に乗っている状態です。

今後さらに、七〇余名の婦人の就職問題が目前に迫っている現状であり、企業的发展和新しい分野の開
拓に努力していますが、なんといつても現在地を動けない立場の人が大部分であつて、しかも特技を持た
ないこと、賃金格差がある点等を十分話し合つて理解ある解決をする必要があります。

この打開策として、私は労働組合と、卒直な話し合いをしています。また地元町村関係、職業安定所等

へも働きかけています。杵島成の関連企業も皆その線に沿って受入態勢に努力はしていますが、これのみでは完全受入れは困難なようで、約半数は他の方法が必要であります。国の施策を待つより他はありません。

私は杵島の関係者とし、また関連企業の担当者として、この問題に取り組んでおりますので、協助員としては巾の狭い運動になります。完全閉山でないだけに、まだ有利な条件にあると思います。

その他に、産炭地の婦人労働については次のような問題があります。

の離職した夫が身近かな土工や請負組に稼働し、低収入のため共稼ぎの必要から職業を求めている。たゞし長期的就職は考えていない者が多い。

炭成合理化は在籍者といえども従来に比べ相当の減収となり離職者なみであるので、主婦の内職希望者が多い。コフ巻きの家内工業、有名な杵島入形も主婦の職業であり、家内作業も行なっている。

の料亭やキャバレー等に臨時に一月の半分以上出稼ぎしている主婦も相当数ある。調べた範囲では家庭的に好ましくない問題が出ているものもある。

以上のような問題の発生については、その解決の第一として安定した職場の必要性があるのにそれが得られないこと、加えて先行不安も伴って民生が安定せず、相当な数の小中学生が不良行為が発生し私共としてはまことに恥しいことです。

目下 学校 PTA 警察 公民館 婦人会等で各種の対策が検討されておりますが、要は、安心して生活の出来る町全体の繁栄が必要だと思えます。このためには産炭地振興事業をよりよく向上し、多数の入々を受け入れられるよう、特に婦人や若入を地元で吸収できることこそ、根本的急務だと存じます。これを通じて私の協助員の任務の一端を果たさせてもらう積りで、

戦後我々婦人の地位が家庭的にも社会的にも高まつて来た。これが戦后占領下において日本の政治、経済、教育に画期的大改革が行われた事にも因ると思われるが、兎角政治においては選挙権の行使が出来るようになり、婦人代表を議会に占め、教育の面でも普通教育以上を身につける者が多くなった。したがって女子の専門的職業への進出も目覚ましいものがある。これは自分の専門的知識を少しでも社会に役立てたいと考ふる社会的良心と物質文化、消費革命に対抗するための経済力を身につけるためのものでもあろうと思われる。一つには今日の文化生活のための時間的余力もあるようになり、職場にも出易くなったと云う事も云えよう。戦前は経済とは入るを計り、出づるを制する事とおしえられたが、今日では入るも出づるも計るという感じになってきた。そして、子供の頃からき慣れた「先だつものは金」が近頃では月賦販売攻勢で「後だつもの」でもよくなつて来た。経済観念が違つて来たのである。婦人の職場進出は教養を高め、経済力もプラスされる事で大変結構であるが、たゞ職場進出が流行視されるのあまり大事な幼時期の子供を家庭に残して出たがる必要せまれない若い家庭婦人が、自立する事にはうなづけない。青少年の不良化が大きな社会の課題となっている現在、この種の家庭婦人は自分の間は入るをはかるより出づるを制して悔いを後に残さぬ様、家庭にあつて子女の養育に専念すべきであると思う。と同時に家庭をなほざりにしないでよいように、小規模の職場に働く人々の社会的経済的裏付けを国が考へてほしい。主婦はその間、家庭内でつとめて教養の後退を防ぎ、才能、特技ある惜しい人材は子供を育て上げてから職場に進出する事も老化を防ぎ、若々しさと教養保持が出来て、むしろ夫からも子供からも喜ばれるというもの。しかし、残念ながら中年以上の女性の職場、パートタイムの仕事場が少い事である。婦人の力で適当な職場作りが用意出来たらと思う。

次に働きねはならぬ母子世帯のための授産施設、保育施設の未だ貧弱である事を嘆く。大都市ではかなり

進んでいると聞くが、我々五万、十万位の小都市の場合にそれを痛感する。乳児でも安心してあづけ得る所。又自分の能力と特徴を生かした察しめる職場。母子世帯はあわれなものという觀念をとり去られた施設作りにもっと政府の力を貸りたい。小都市では経済的貧困さからこの方面はあと廻しにされがちである婦人の地位向上をよるこぶ反面、其の他農村の婦人労働問題等解決しにくい幾多の課題が残されているように思われる。これらは我々婦人が団結して少しずつでも自分たち協同の力で解決前進して行かねばならぬ事だと考える。

年少労働者の余暇の善用に関する啓発活動について

昨年十一月に結成された年少労働者の集い青葉会の益の助力者としての私の体験をりやさせて頂きます。弘前地区年少労働者福祉協会の結成も同時になされ、助成員は常任委員として青葉会の運営面に専門に相談にのる事になりました。青葉会々員のそれぞれの置かれた立場やその業種などで週休制はあるもの、休日は一緒でない、終業時間もまちまちである事などの壁につき当り、アンケートをとり、話し合いをし、余暇をどんなに使っているかの実体を知ることからはじめました。映画を見てお茶を飲んでの一日という事でした。勉強もしたい、運動もしたい、同じ年頃の働く者としての喜びも悲しみも怒りあいたい、励ましあったり慰めあったりする友達がほしい、その場がほしいといふことでした。組織のない一人一人では何も出来ないこと、仲間作りをどのようにもってゆくかを語り合いました。アンケートの中の一語一語を望むものを先に実行に移すことにして、体育の学習という名でフオークダンス、バドミントン、卓球の集いを二月にもちました。五十六名の参加があり、講師を中心に和やかな雰囲気、楽しい会合でした。常時集って教養も高めたいという会員の声を取り上げてペン習字、毎週木曜日二十名のグループが出来、続いて珠算、毎週日曜日二十名のグループ、レコードコンサート隔週土曜日十一名、お花は小原流、毎週水曜日十三名、フオークダンス隔週二十名とそれぞれのグループが出来、会員の中から委員を出して責任のある運営がなされるまでに成長しています。三月から四月にかけて会員の手でがり版刷りの機関紙「青葉の友」を発行、感想あり、詩あり、歌あり、俳句ありの楽しいものが出来ました。原稿集めから製本まで会員の努力の結果でした。年に四回位出したいと意気込んでいます。会員の動静、月間の事業予定などを盛った青葉会ニュースも今月で第三号を出しています。大きな行事としては発会第一回の例会として十二月に教育会館第ホ

ールをかりてクリスマスパーティーをもつた事。会員百十名来賓十五名の参集を得て、案内状の作製から会の運営に至るまで全部会員の分担によつて出来たこと。一人一人の力を合せてなし得た事は大きな収穫でした。九月の創会として若木山登山を計画し、山上までの登山者は八名だったが、若木山麓の桜林まで全員四十六名が登り、登山口の百沢まではバス一台で行き一日の行旅を共にし親睦を深めました。グループの集りも人数のぐっと少い日も多い日もありますが講師の諸先生も働く青少年の種々の条件を深く御理解下さつて快よく指導下さつてゐる現状です。勤労青少年ホームの建設の日を夢見ながら今後も青葉会の青少年と仲よしになつて余暇の善用の爲の啓発活動をコツコツと一つ一つ積み重ねて続けてゆきたいと願つています。とりわけ立派な助言は出来なくてもその会合の初度出来るだけ出席して実情をつかんでゆく事が何より大切と思つてゐます。

定利市に於ける年少労働者の余暇の善用に關する啓発活動について

栃木 小野 藤 吾

私は婦人少壮室助助員として五年の経験で満足するほどの仕事は出来て居りません。たゞ室長の薦めとく仕事も出来ませんが出来るだけ室長の方針に添う社会公共奉仕員のつもりで、又は室長に出来るだけ協力する考えでやらせていただいております。さて、私は曰頭青少年の使命を広く深く私なりに考えてる点を発表させて頂いて私の反省と今後の勉強にやくだちたいと存じて居ります。

そこで定利市は人口十四万六千の鐵道製造産業を中心とする都市で二二に働く十六才より二十才迄の勤労青年男女は約一万六千で製造企業体に於ける各種業態から二二五九人を抽出しての状況を

① 年令別は

十六才 〃 五八一人

十七才 〃 四五四〇

十八才 〃 四六〇〇

十九才 〃 四三五〇

二十才 〃 一六二〇

二十一才 〃 一六七〇

男子 八〇七人 女子 一、四五二人

② 出身地は市内の者 男子 五九% 女子 五〇%

県内の者

九

二一

県外の者

三二

二九

③ 勤務転別は

現場従業員 九〇

八八

事務 〃 八

一〇

④ 通勤状況は三十分以内 八三

四四

一時間以上極めて少数

寮より三十分以内 一六

四〇

⑤ 勤務時間は八時間以内 男女共 七〇%

十時間が若干ある

休日とは週休九五%で定めが無い者が若干ある

⑥ 余暇時間は三時間二三% 四時間二〇% 二時間十七%

⑦ 余暇利用の意識

⑤

イ 何にか身につく技術を習いたい
 ロ 趣味を広く深く研究したい
 ハ ゆっくり休みたい
 ニ 別に考えたことがない
 ホ 自由時間がないのでやりたくも
 できない

					男子
四二	二〇	三〇	三	五	
女子	五九	一七	一三	五	
				三	

⑥

余暇利用の状況
 イ 身のまわりの掃除や整理
 ロ テレビ、ラジオ、映画の観賞
 ハ 趣味的なこと
 ニ 家の手伝
 ホ 勉強
 ヘ 別に何にもない
 余暇利用の学習活動の参加
 イ 何にも参加しない
 ロ けいこごと
 ハ スポーツ
 ニ 定時制高校
 ホ 趣味の集り
 ヘ 青年学級

一〇	三六	二八	一六	三	
五七	二六	一一	三	一	

以上の%の状況から定利の勤労青少年は女子が多く、八時面労働で週休が完全実施され余暇を有意味に活用したい意欲がある反面、習活動にはあまり参加して無い等々、数字分析して充分考える点が多いと存じます。私共、協助員の使命の上から非行、墮落、耽溺、不適応、青少年の相談、グループ活動の助言指導、スポーツ振興等、関係機関団体事業場が連綿提携して心身ともに成長の過程にある年少労働者を単に転業能力に限らず精神的にも身体的にも調和のとれた社会人に育成したいものであります。

以上

年少労働者の余暇の善用に用する啓発活動について

群馬 斎藤 篤司

一、余暇善用の必然性

中小企業に働く若年層の問題については、特に小規模企業、商店に働く者の労働条件や環境等その他の面については、次して望ましい現状とはいえず、商店振興策の一環としての、店員の雇用問題とともに、福祉対策としても重要なものがあり、商店街の一日休日制、週休制の実施はもちろん、一斉閉店等の励行は、必然的に店員生活における余暇をいかに善用させるかが問題となってくる。

二、店員クラブと福祉委員会の決定

伊勢崎市の商店に働く年少店員は、家からも職場からも解放される余暇に何を求めるであらうか。大人は口を附けば、むしろが若い頃はこうであった。△△は悪いことである。××はしてはならない。と、もっぱらばからずで若い者をおさえつける傾向がある。

これであつては、若い者は使作無し、好結果は得られないのではないだろうか。むしろ、〇〇しよつてはないか、こうしよつと、いつたぐあいで進めべきではないだろうか。そこで、青年会議所を中心に、健全な社会人の育成、福祉の増進と勤労興味の向上を目途にマイナー・クラブの結成について、昭和三十一年十一月以来、群馬婦人少年堂、伊勢崎商工会議所、商店連盟の協力を得て準備を進め、毎夜町内毎に店主に対する啓蒙を行なつた。すなわち、クラブの結成は労働組合結成の前提ではないかという疑問が一部に達かつたからである。それでも店員層と児童層の青年会議所の諸君との賛気もぶつたりと、創立会員約一五〇名で、昭和三十四年三月に伊勢崎マイナー・クラブの発会式をあげ、その後会員は二五〇名に増加、店舗数も約一五〇店に達した。

更に時を同じうして、年少労働者福祉費制度の誕生に早速三十三名を送出し、年少者に対する肉心の養合を増すべく、協賛員と福祉員との協議会談会、店員と福祉員との座談会等を重ね、福祉員会を結成、それぞれ教育、保健衛生、生活相談、労務管理、マイナー等の別会を設け、傾向に婦人少年堂長、協賛員を委嘱し、店員生活の向上に活動を続けている。

三、福祉センター建設

余暇をレクリエーション（スポーツ等）を中心に、また、学習活動（教養、商業実務）により、用るく楽しい人間関係づくりに努めているが、更に福祉の増進について、一昨年末、福祉員会や商工業者と相はかり、商工会議所を中心に共同給食、晩の家、共同宿舍等の共同福祉施設の建設を決定、第一次計画の給食施設並に晩の家が十一月には完成し、余暇善用の場も提供され、働く者に「生活の喜び」が与えられることと見られている。

年少労働者の余暇善用に関する啓発活動について

埼玉 北村士守

一、青少年の余暇善用について

従来、企業体の多くで啓発する青少年の余暇善用については花城学校・教養学校・体育・レクイエーション活動並びに行事等を、各企業体において実施してきたものであるが、ますますより良い、より価値あるものへの今の青少年の欲求事は未充足である感も多く、従つて青少年は余暇の善用に適切な場と状態とを求めて走り、ある者は健全な学習とか体育とかの場を見失ない、安易な「歌と踊と不純な恋」に墮る者も少くない。

このことは経営者または会社が反省し、対策を具現しなくてはならない。新しい企業体の負荷の課題でもあろう。

二、近代企業における労働要素について

労働要素として、経営者は労働の対価として賃金を支給し、労働者は労働を提供すれば良いから脱し、特に青少年の労働時間外のホームとプライベートの場において学び、考え、祈りかつ楽しむの場と状態を作り、労働の場における経済的地位の向上、労働条件の改善とともに青少年の余暇を導き、楽しく青少年を助長育成することは新しい企業体に要請される労働要素の一つではあるまいか。

三、近代企業の責任性

特に中卒年少者を擁する企業体においては「働く」場としての企業体より「働きつつ、学びつつ、考えつつ、寝しみつ」に生々發展する所謂「産学一致」の理念を形而上下に亘り具現実行する責任を有す

るものと思惟するのは福祉国家のミラルでもある。またこのことに關しては政府は文教政策と労働政策に併せてこれら「産学一致」の企業育成に対して、税制経営上の格別の配慮あらんことを期待する次第である。

四 企業体の産学一致について

年少労働者が「働きつつ高等学校を卒業する」とことは、労使とも云い易くして行い難い所聞的、経済的な多くの問題を内蔵していることは言を俟たない。この場合、

改善としては、企業体に高等学校をつくり、且つ健全体育、レクリエーションの場をつくることである。

改善としては、定時制または通信制の高校施設を具備して、年少者を「働き、学び、樂しく」に指導することである。付くして、閉居の不善を防止するよう配慮することが必要であらう。

五 当社の産学一致の眞寔について

産学一致の理念に立って、余暇善用による高校教育の実現を企図し、肉係当局の助力を得て昨春、平仙高校（埼玉県立浦和高等学校平仙分校）を社内の閑閑の地に設立した。

(1) 開校 昭和三十七年四月十四日

(2) 過程 ここに至るまでには通教一般生（有免入学）並びに高度の花塚学校・教育学部（の学習に配

慮してきた）

(3) 現況 新校舎二棟七〇〇平方米

(普通校舎・理科・訓意・図書館等)

既設校舎 三〇〇平方米

(被服・音楽・書道・茶華道)

生徒数 高橋庄一六〇名(明年度一八〇名に達する予定) 教養学部生約二二〇名(逐年漸減の予定)

目下以上の青少年が勤務に励みつつ学習にいそしんでいる。

三年後の春から平仙高橋庄が多数正規の卒業証書を手にすることになる。

当社と地域社会との関係は伝統的に密接を相互に信頼が厚い。

従業員は近隣百余の中卒から優秀な卒業生が集合する。従つてその賃が高い。採用時の前

提条件として、新採用者は全員平仙高橋校に入學することを約定としている。

開校二ヶ年、幸に一人の落伍もない。益々教育環境の充実を計り、年少従業員之余暇善用

とその啓発に努力したい。

(15)(14)

将 来
特 色

雑 詠

平仙リース株式会社

役員 北村 士 守

○ 産学に移し植えたるみまわりの伸び育ち行くぞうれしかりける

○ 産学の雪に堪えたるひまわりのやがて更らん秋は来ぬらん

○ 雨の日に次ぐ晴の日もありと云ふ君の伸びの四年祈るも

○ 仕事場に誰れか飾れる野花見て乙女の幸を神に祈れり

以上

年少労働者の余暇の善用に關する啓発活動について

東京 阿 木 武 男

年少労働者は成年者に比し心身の発達が完全でないので各種の施策を以て健全な発達を助長させると共に不良化の防止に努めなければなりません。

勤務場に於ては、或る程度集團生活であり職場秩序も保たれ、上司の監督もあるのでそれ程心配する事はないと考えられます。

しかしながら勤務外の余暇の利用の可否については不良化に直結する大きな問題があります。そこで余暇を如何に善用すべきであるかが大きな研究課題となります。

この余暇の善用については大別して文化教養面と体育の面とに分ける事が出来ます。

文化教養については、東京都の各区都市において青年學級として音楽、社会、和洋裁、簿記、その他の科目が自由選択で受講する事が出来ます。

体育の面については、各都市に体育協会があつてその所屬團體に卓球、庭球、柔道、剣道、バスケット

空手、野球、弓道、釣、相撲、ソフトボール、陸上競技、自転車、その他の部があつて自由に低廉な費用

で体位の向上と技術の練磨をする事が出来ます。又ほとんどの都市に青年團があり文化体育面の活動を展開しております。

年少者はその心身の発達が著しいこの時期に文化教養の向上に努め、又体育に専念すれば技術の向上は顯著に現われ、その成果は非常に大であります事は自明の理であります。問題は本人の強い意志にあります。

この様な競技に於ても短日時の間に急速な技術の上達せんが為には本人の強い意志と忍耐力及び良き指導者が必要であります。

どんな人でも悪い事をするのは案に入り易く、正しい事をするのは難がしさがあるのであります。

スポーツが入り易く、然も技術が向上すると共に人間内にもその資質がみがかれて行きますので余暇の利

用には最も適していると考へられます。

然し競技によつては夜間利用出来ないものもありますので何時でもどこでも簡単に少額の費用で自由に利用しうるような競技を選べは良いと思います。

私は週日の夜は文化教養面の向上に前に述べました各施設を利用し、休日には自分の体力に適した体育を選んで良き指導者の下に技術を練習すれば心身共に立派な人間が出来ると確信しております。

私は卓球の東京都下の役員をしておりますが、卓球は他の競技に比し小さい場所で卓球台さえあれば少ない経費で、日中夜間を問わず且体力を問わず利用する事が出来ますので日本人に最も適した競技の一つと云えるのではないでしようか。

私は卓球の少年の部の参加を多くする様、新聞又は案内状等でPRに努めておりますが、卓球に限らずスポーツを愛好される様念願しています。

年少労働者の余暇の善用に関する啓発活動について

新 潟 県 東 平 八 郎

最近の若年労働者が希求している事柄は、高賃金というより寧ろ、労働時間の短かい事、余暇を自由に過ごせる事にあるものの様である。特に中小企業に於ては、若年労働者を雇用するためにも、又雇用の安定をはかるにも労働時間を短縮することと余暇を充分に与えることが緊要事である。

私としては、商工会議所事務

公民館連合会職員、及び観光協会事務としての立場から、

これらの事の啓発と実施にあたっている。

先づ現在最もこの点でおくれている商店の閉店店時間の規正と定休日制定により、出来るだけ店員に余暇を与えることにつとめている。定休日も各店随意又は各従業員交替制では心から自由に余暇を樂しむことが出来ず、又他店の店員との交友も出来ないから、一斉休日を制定し（又今のところ月三回）余暇を与えることにつとめた。

さて、ここで問題になって来るのは、その余暇の善用である、私としてはこの事について次の通り実施している。

一、商店街のレクリエーションの推進
二、市内観光施設の充実

(一) 山本山という眺望の良い山の頂上へ高層となっているの开发

1、庭園地風芝生の造成

2、放牧場の造成

3、遊歩道等の造成

これらの事によって休日には市内外の人々、特に従業員多数が散策、球技等を楽しんでいる。

三、スキー場開発

小千谷スキー場を開発するにめ観光開発株式会社設立を推進実現した。

四、公園施設の充実

五、従業員にスポーツ推奨

業種別球技大会の開催

(2)(1)

業種別組合に組合主催の従業員運動会開催をすすめた。
今のところ実施しているのは鉄工、織物両組合である。

さて、従業員については、技術面の指導も必要であるが、要は「企業は人である」との観点から基礎的な教養の涵養が重要である。その見地から実施した事柄は次の通りである。

五、小千谷市公民館併設図書館は予算の関係で人員が少く、従業員、土、日曜日は閉館しているが、人員の拡充を提案採択され、土、日曜にも開館することとなり従業員も案に利用出来るようになった。

なお、団体貸出しも実施することとした。

六、中小企業に於ては従業員と主婦との関係が特に微妙である。余暇の善用についても主婦の認識が必要であり且つ最も重要なのはその愛情であると思う。そこで随時主婦講座及び研究会を開催して啓蒙

迄発している。

一 年少労働者の余暇の善用に関する啓発活動について

富山 石田 貞

高岡市青少年室長として、また助員としての立場から高岡市における勤労青少年の余暇善用に関する啓発活動は一体どのような仕組みになっており、なおどのような問題点を抱えているかについて考えたい。

(1) 勤労少年補習懇話会

高岡市におけるハ〇近くの企業体の経営者訪談担当者により組織され、勤労青少年の余暇善用を目的とする全市的スポーツ・レクリエーション活動奨励に主眼をおいたが本年は稍々方針を変え、定例会において勤労青少年のたのめ、社内における福祉、厚生、学藝、文化活動推進策について研究、協議する姿勢をもっていく事となった。

(2) 勤労青少年会

これは主として懇話会加入の企業体の青少年をもって組織される全市的団体で会員数約一千人、懇話会と協力してスポーツ、レクリエーション事業を実施してきたが、本年は団体の組織問題をとりあげ、各企業毎に組織を充実させ指導者養成、グループ活動推進に努めている。

(3) 商店主婦の会

主として専門店会婦人部の活動が中心で、その企画の中に「勤労青少年の保護育成」の内容をもちこみ、求人難問題ともからみあわせて話し合いの主題としている。

3 広報活動により

青少年会は秋岡紙「きんろう」を毎月発行、会員相互の連絡、親睦を築めている。その他にも少年補習センターの「補習だより」市の広報「市民と市政」があるが、二の利用活用については研究の余地がある。

4 地域活動による

本年度の青少年活動推進目標として、各学区毎に青少年補習委員会を結成、積極的に青少年問題ととりくむ事となった。市民全体が青少年に関心をもち、能勢区地域に具体的に「つくろ」という事を、勿論この中には勤労青少年の問題も含まれている。特に中小企業、商店に働く青少年に対する地域的配慮、協力が期待されている。

○ 考えられる今後の問題について

1 福祉員、補助員等の制度・活動について

勤労青少年の福祉のために前記制度が設けられているが、これらの人々の存在、働きが一般に知られていない。従ってこの制度を利用する向も少ないという事になる。なおこれらの人々相互の連絡、便にこれらの人々と関係機関相互の連絡、情報交換という事もより積極的に考えられねばならない。それがまた一般への認識を深めるきっかけともなる。

2 広報活動について

先にも述べた「市民と市政」「補習だより」「きんろう」等を有効に利用し、青少年関係の運動推進期間、月間等には、つとめて紙面を活用して前記制度の紹介、PRも継続的に実施すべきだと考えている。

3 施設について

勤労青少年の余暇善用はいくら理論を並べても解決されることなく、彼等の要求の大半を満し得

る施設を与えることである。勤労青少年ホームの建設、或いは現在設置されている地区公民館の拡充、青少年キャンプ、村の設定等について関係方面への働きかけが急務である。企業内における福祉、厚生施設についても同様のことがいえる。

なお、従来活動している市少年補導センター（市青少年補導委員会が設置、街頭補導と少年相談を行なっている）についても特に相談業務については研究の余地がある。

4. 労働組合との提携

企業内における各種学級、活動を進めるにあたり、勤労青少年もその一員である組合との連絡、協力も考慮すべき問題だと見られる。

5. 調査

最後に勤労青少年が余暇を如何に過ごしているかその実態を広く関係者に知ってもらふ必要から、その裏付けとなる資料をもつ事も、運動推進の重要な手がかりとなる。そのため勤労青少年の生活実態調査もまた当面する重要問題といふべきである。

年少労働者の余暇善用に関する啓発活動について

山 梨 米 山 直 照

一 年少労働者の余暇利用に関する問題点

二 三人の従業員が働くいくつかの企業の従業員たちが集ってグループを作り、休日休暇を利用して、レク活動や文化体育活動を行なう場合、その多くは全く彼らの自由な企画のもとに野放しの状態で、その効果も余り期待出来ないのみか、むしろ好ましくない方向につつまざる危険性さえ孕んでいる。

自主活動の重視は当然ながら、企業主にも指導力がないものが多く、ここに適切な助言指導がなされねばならないことはいうまでもないことである。

また一方、思想的に未熟な若年層をねらって民青司が入り組む絶好な条件をも備えている反けに充分警戒も要する。

比較的従業員が多い企業でよく行なわれている春秋二回程度の旅行で能事足小りとするものもあるが、必ずしも年少者が満足しているかどうかも疑わしい。

二 その対策

小企業に働く年少者は労働福祉協議会等の行なう諸行事にも参加させ、綿密な計画と周到な指導による明るく楽しい余暇活動の機会を多くして、健全な集団活動の訓練、円満な人間への育成をはかり、また比較的多数従業員を擁する企業には、労組の有無に拘らず親和会を設立させ、会員相互の意志疎通や、職務上その他の苦情の調整や、慶弔の至情を扱ったり、福利厚生活動を積極的に行なわせ、働くことの喜びと余暇の善用によつて、充実した職場生活を送らしめる。

三 ちすび

年少労働者の余暇善用は、就業中の労働能率を高めることに通ずるものでなければならぬ。そして、束まれない小企業の年少労働者に重点的な指導の手が差しのべられねばならない。

年少労働者の余暇の善用に関する調査活動について

大 阪 道 倉 乙 緒

一、事業主の主婦の婦人学級に参加

事業主の協力を得るためには産傭主に対する補助員の方途えが必要だと思ふ。

しかし産傭主と補助員の繋りを持つ事はなかなか容易な事ではない。私の地区では商店街の主婦の会の婦人学級に補助員が参加する機会を得る事が出来た。

婦人学級の指導に婦人少年室長が行かれた時に私達二人の地区補助員も参加して補助員の存在をたしかにし働く婦人、働く年少者の保護福祉のためにお互に協力しあふ事を約して懇談の時を持つ事が出来た。

年少店員の余暇の善用、経済的な援助等都合の議題に取り上げる事が出来た。労働者の余暇の善用に関する啓発活動として先づ事業主の理解を深める事が必要だろうと思う。

二、商店街の店員学級に参加

店員と共に受講、一緒に歌い、一緒に遊び店員達と最も親しい関係となった。

余暇の上手な使い方について

講師 大阪府勤労青少年ホーム指導員

1、余暇の時間を最も有効に過ごす工夫

2、商業的な娯楽にひたる事は不健全

3、生活を豊かにするため、明日に希望を持つため、心を豊かにするため余暇の上手な使い方

4、個人としては読書、お茶、花等実務的な事に余暇を利用する事も必要

5、スポーツはみて楽しむより自分達でやってみる事

6 グループ活動は自分達の事のみでなく社会の役に立つ様な活動もする。

指導員の指導の下にこんな話がされた。

次の機会には具体的な計画を約束された。

最近中小企業、小さな商店に於ても殆んど週休日が実施され、多くの余暇を持つ事が出来る様になった。余程よき指導者を得ない場合は余暇が不良化の一因となる事にもなる。

補助員が単独で指導するのでなく、年少労働者福祉員に協力し、他の関係機関との連絡を密にして他の機関の中に入り、先づ事業主の理解、協力を得て年少労働者に親しまれる目標になる事が大切だろうと思う。彼ら彼女達と信頼感を持つ方法として

一 年少労働者の集田就職に際しての連絡を各地域の補助員に通知することを最優先に要望したいと思う。私の地域では集田就職者の激励会を一つの行事としている。四月に就職、一ヶ月後の五月に就職して働いている年少労働者と初めて顔合せをする事になる。

商工会議所、市当局、事業主、少年室補助員とよつてなる。吹田労働求人対策協議会によつて計画され、経費は市及事業主、運営は商工会議所、補助員は受入地の母親と云う様な立場で出席し、少年室と懇談し希望を語り合い時を過ごす。写真を写して年少労働者との別は離れがたいつながらりを持つ様になる。

私達は三年前にこの催しを新南で知つて商工会議所に協議会に参加を申し込み、今では各機関と密接な連絡が出来る様になり地域に於て補助員は重要なポストに置かれる様になった。其の結果補助員が持つ他の役職を活用して種々の問題の解決も出来る様になった。年少労働者の集田就職の受入に際して各地区毎に補助員又は婦人少年室に通知を受ける事が出来れば就職に先立ち受入地の親として迎えてやる事が出来るだろうと思う。

当地区三十七年度の中途住込み就職者四十二名中、半年後の今日、離職者五名、交通事故死亡者一

名、他は元氣に働いている。

二ついう離れ合いにより余暇の指導は勿論のこと、生活指導にも及んでいき度いと思う。

― 最近の事例 ― 本年四月就職した一年少者が約束の事業場にも採用されず、七月末に至る約三ヶ月間、住民登録の手続も行なわず、従って国民保険にも未加入という中で、夜分單車を引き出し、交通事故をおこし、重症の怪我をした。その補償も充分行なわれず、就職した時知り合、私を頼って父親が来宅した。地区助員が中心となり婦人少年室の協力を得て関係各官公庁に連絡をと、り解決にむかっている。

年少労働者余暇善用に関する啓発活動について

茶 良 今 村 ハ ナ

二、数年来激しい求人難を契機として中小企業経営者は従業員の受入れ態勢の整備や福祉の増進について大いに関心を高め、求つてあることは誠に喜ばしい現象であります。

中学を卒業して中小企業に就労する年少者は心身共に急速に発達する過渡期にある為、非常に動揺し易い時期であります。従つて之が健全な育成を計り、又中小企業の繁栄を計る為にも年少者の特質を理解し精神的にも身体的にも調和のとれた社会人従業員に育成してゆく事こそ切つ緊の要務であると思ひます。

特に最近では各企業共労働時間、休日等の労働条件の向上を計りその余暇の善用、一般教養、教育、保健衛生や、人間関係についても関心を持たれて来つてあります。私は今ここで一昨年（三十六年九月）二つの企業所に青年学級が開設された由来や現在までの状況について簡単に述べて見ます。

双方共現在は一五〇名（男子二〇名、女子一三〇名）を雇用する所轄中小企業なのですが四年前までは五〇名足らずの人員で余り福祉施設もなく年少労働者は只黙々と働いていたのみでした。所が急激に企業

が拡大され従って従業員も集団就職して急増しました。そこで村教育委員会が産婆役をつとめ私も之に協力して会社側と種々交渉を重ねいくつかの難関はありましたが、社長の理解で昭和三十六年九月又が一場青年学級一開設の運びとなりましたのであります。爾来二、三年生徒は至極真面目で成績も仲々優秀です。尚反面会社での就労状況も仲々よく明朗活潑な健康で社交性のある人間に養成されている様に思ひます。之は只単に二つの小さな例にしか過ぎませんが更に年少労働者の心の糧を得る爲に仲間作りやグループ活動の指導についても啓発して行かねばならないと提唱する者です。と申しますのは私の近くで青少年が十人一つ一つのグループを持っています。一つの中には青年団の幹部が三人います。ここに集まる者は夫々異なつた職場で働いている者ばかりです。がその中の一人が私にこういいました。「僕達少年期は物の見方、考え方が非常に極端すぎるらしいですね。一つの職場にはかりいふと、他から見ればごく小さいような問題でも広い世間を知らない為大きく考えて、悩み、苦しめ、悲観するのです。そういう場合このグループへ来て皆に心の底をぶちまけそんな話し合いをして聞いてもらうと心も明るく気もすーとして清々し大變プラスになるのです」と述懐してくれました。この事実を聞いて私は特にこうした機関が多くほしいものだと切実に考えました。

兎に角働く年少者は将来社会の中堅として日本の産業を背負つて立つべき大切な人材であります故私共は働く年少者が心身共に健やかに、立派な産業人、社会人となつてくれます様余暇の善用について啓発してゆくべきだと存じます。

年少労働者の余暇の善用に關する啓発活動について

高知 北岡正郎

高知県下には約六千名の年少労働者がいるが、彼らのほとんどは高知市又はその周辺の中小企業や零細企業に働いている。

年少労働者の自主的なグループとして「高知働く友の会」があり、現在会員約三十名で細々と活動をしている。

これは、昭和三十三年「働く年少者の生活文」に応募し受賞した年少者たちが、このまま別れてしまふのは惜しいということから発足したものである。しかし、リーダーの不足、会員の出入りのはげしいこと、会の運営経費の困難からたえず消えかけては又、年少者たちの手で盛りかえされてきた。

高知県には、適いの場合としてのホーム、会館がなく、昨年末からこのことが、年少労働者のグループや年少労働者福祉員、経営者協会、又中小企業団体等でも話し合いがもたれ、再三知事に陳情しているが、使用者、事業主側からの世論がゆきあがっていないため現在はまだムード作りの段階である。

適当な施設すらもない年少者の面では、毎月店へ配られる地元の小新聞の隅にのっている映画の割引券を奪いあい、上手の休日映画に費しているということを知っている。

又、会社自体で会社の方針として、従業員グループを育成指導し、かなりの成果をおさめているところやポンポンできてはいるが、年少者の面では休日之余暇にあてるため、義務づけられてしまつて自由行動がとれなく不平がでているということも耳にする。

しかし週休制のまだ実施されていない個人商店、工場にはかなりの年少者が働いており、経営者は余暇の活用にはまだ手の届かないのが実情で、余暇生活以前の問題が残されているが、現在の職場での生活を察しく明るく話し将来への希望をもたせ、少ない余暇時間をどのように有効に活用したらよいのか、年少者以

上に私たち大人は考えてやらねばならないと痛感している。

年々高校への進学者が増加し、就職希望の中卒者は大都市にそのほとんどが吸収され、地元の産業は求人不足にあえいている。それに伴って、県下の年少労働者の質が低下していることも見のがせないのである。これら働く年少者に将来の希望を持たすように指導することは最も必要なことである。例えは、学校へ行けなくても、現在の仕事に精魂を打ち込んで学校出の入達に負けないような技術や特技を身につけるようにする。

非行少年になる割合が母子家庭の子供に多くみられるので家ともよく連絡して事前に救いの手をのばすように指導していく。

又、既成の年少労働者のグループ、趣味でつながれたもの、同休日のもの、或いは地域ごとのグループ、このような小さなグループを沢山作り、勤労青少年の憩いの場をもち、小都市における恵まれない年少労働者のために、助助員として少しでも役立ちたいと念じている。

地域における婦人問題について

地域に於ける婦人問題について

北海道 工 藤 登 龜 野

売防法が施行されて幾年もたつて尙絶滅する事が出来ないうち、地域では二の人間の更生に専断をあたせんとするか、生活保護をもちつうように手腕を要するか、又は更生資金を貸付ける等のあらゆる方法をこつていふものであるが、なか／＼はつきりしたきめ手がない。民生委員や、役所の婦人担当者、その他の関係機関の人々が相談し合つて居るが、発見が困難である所に問題があると思ふ。

私達の町は港まちで毎日船が入港し、上陸した人々の多くは、紅燈街に行くようである。又、船がつくと、みそかに船にしのび込んで行く女性が増えるので、最近特に船に出入りする女性をげん直にかん視することに関係者が決めたようである。婦人担当員や、関係者の推定では、百名は確實な所だといふ。いわゆる飲みやという店が五百軒あり、こつて働いている人の最低数を四名とみて、概算で二千五百名の女の人たちが夜のまちに働いているわけだ、必ずしも不法な行為があるというわけでもないと思ふが、二の人の生活は子供をかくえ、親をかくえ、又は病人をかくえて少しでも多くの収入を得ようと思つてゐる現実をもつてゐる。

私たちは母が夜の商売で、大切な夕方から夜にかけて家をあけてゐるために、子供が問題児になつた例を沢山知つてゐるので、何とかして夕方には家に帰れるような仕事をと考へてあげても、収入の面で折合わない事が多いのは誠に残念な事である。二のようになんたの事態を調査してみると、職業的技術は何も身につけてゐない。中には労働はきらいだといふ人もあり、而も二の人はたゞは智能が割にひくい者が多いようである。アメリカの調査によると売春婦の殆んどが幼時に又は少女時代になんらかのかたきで異性がらぎづつけられてゐると発表してゐる。

そ二つ、最近特に目立っている女子中学生の家出問題である。家出した少女の殆んどが俗にいうキンピラや、やくざといった男たちに汚されてしまっている。ある中学一年の女子は学校の帰りに不良青年に乱暴されて、それ以来家に暮らつがず、反産といつしよにキンピラの仲間に入り夜となく昼となく放浪生活をしてゐる。

二のように红灯街に暇を求めそれが売春につながり、問題青少年の中で盗みや、ほかの教より不純異性交友の教がだん／＼多くなつてゐるのが現状である。こうした問題をもちつた女子たちをどのようにして守つたらよいかという問題である。現在は法律でも民間機関でも保護する何の方法もない。私たちはそんな子供を発見するたびに、防犯に連絡し、説諭されて家庭に送りこくか、又、すぐに家出する。親もどうにもならない。その中に、万引や盗みでもあれば、養護施設や救護施設へ送りこむわけである。然し、又二の施設が満員でなかなか入れないのが現状である。非行グループは日増しに大きくなつてゆく。一般社会の肉縁のない人たちは、唯まゆをひそめて、無関心のようにある。少くともこのような現状から将来も婦人問題に關しては、かなり不安な氣持がする。

それで私は、現在の少年法の中で、あるいは婦人少年関係の機関の中で、義務教育中の女子を汚した者に対する処置をもつと明確にし強く責任をとらせるべきであると思ふ。したがつて、法でそれ等を定めて女子を保護するべきである。こうした子供達の将来の幸福を守るために必要な事であると思ふ。こうした少女たちに關する保護法を含めて、婦女子に乱暴した者に対する刑があまりにも輕すぎるように思ふ。ともに安心して外出出来るような、外出させる事の出来る様な社会をつくるために私たちは努力しなければならぬと思ふ。

みちのく東北の地にも、危き足で冬が訪れる様で、夕べの寒気が一しおでございます。
めまぐるしく変化するこの世の中に、私たち婦人にあるべき役割は重大なものであると思ひますが、私なりの考えをこゝにまとめて見たいと思ひます。

幸ひ私たちの地域は、第一回の勤労者生活モデル地区として、婦人少年室の御援助のもとに生活技術を身につけておりました。その甲斐あって近隣同志のまとまりもよく、お互いに助け合いながら明るい毎日を送っておりますので大助かりでございます。

沈黙が美德とされ、四の代以上のおかあさん方も、だんだん口を痛いて話し合ひの仲間にはいり、自分の悩みを打ちあけてくれるまでに成長した事は大きな収穫でございます。

家庭生活が機械化される事によって、私たち主婦にも余暇を見出すことが出来、自らを高めるための勉強も出来る様になりました。

衣食住の問題を取り上げたり、青少年の問題、そして老後の問題にまで話し合ひを展開する事が出来る様になったのは、何よりのしあわせでございます。

而し、消費生活の面となりますと、誇大広告にあおられて、ついから／＼と不必要な物買まで買ひ込んでしまふ情ない女もあるわけです。好きなものをたべ、好きな着物を身にまとい、のんびりとすごして見たい。こんな感情は誰しもいだく事だろうと思ひます。他人の表面を羨やんで自分の生活を忘れてしまふのもこんな時でしょう。

子供の成長のほめにも同じ事が言える様気がします。能力も考えずに期待過剰になり、有名校にのみ入れ込んでしまふ私たち大家族、子供の真のしあわせを思えば、子供本位の自分に合った道を進ませる事

こそ幸せだと言えるでしょう。レッテルがものを言う現代においては、どうならざるを得ない振る舞いが致しますが、子供たちが大きくなる二十一世紀頃は能力本位の時代にもなるやに書いておりますので、特技を生かしてやる事が一番幸いせぬ事だと思ひます。どんな苦勞にも勇氣を振って立ち向う事の出来るたくましい子供が一人で多く育成される様、私たち親も家庭教育をしつかりやっつてまいりたいと思つております。物価が上昇するのに比較して、賃金がさ程上らない私たちサラリーマン生活者は、いさおい内職や共稼ぎという姿で現われて来ます。

共稼ぎの中にも求めているものはさまざまで、私たちの地域でも七〇%近くは内職もしくは共稼ぎと云う姿に變つて来た様です。いづれも建設的な貢獻にもえて働いておりますが、小さなお子様をもつているお母さん方が一番氣の毒な様に見受けられます。パートタイムにおしみなく時間を提供してくれるお母さんがあったとしても、せめて場所だけでも町内に一ヶ所位あったらなあと一人ごとを受らす月もございます。とにかく私たちじつと抱まつていたのではどうにもなりません。みんなの悩みを、自分の悩みとして助け合つて進もうではありませんか。

最後に私の生活の一二を二、三紹介してまとめに致します。

種 別

- 1 仙台市郡山中PTA学生会
- 2 市社会学級

- 3 河北、新報KLC

河北BLC卒業生

OBにて編成

目 標

生徒の学力向上と学校と家庭の緊密な連携。
社会人、家庭人としての教養を高め学習を通して人間関係を作る。

消費のよりよい策い、商品知識の高揚と文化の要求。

4. 地区婦人部

5. 四つ葉会

地域における婦人問題

活動

動

地域婦人の人肉關係、レクリエーション、奉仕

親しい友四人で心の交流、老後の設計、奉仕活

山形 鈴木ギク

社会の進展にともない生活多岐にわたり、婦人の果す役割は極めて大きいといわなければなりません。ここにおいてわれわれ婦人の労働に関する問題も真剣に考慮せねばならないことを痛感するものをございます。

従来わが山形県の主婦たちは家庭内にあって主として育児、裁縫、炊事、洗濯、掃除など担当しておれば事足れりとしておったようでしたが、現在の主婦はどうしてどうして、こんなことではとうてい向に合うはずはございません。

現今目まぐるしい世代の進展に即応した文化生活を営むために家庭内には電気器具が入り、田圃には大小さまざまな農具が働いているのではないでしようか。従ってそれらの資金をつくるべく多くの男性はわれもわれもと遠く関東関西へと出稼に出かけるようになりました。あとに残された主婦は老人と子供たちをかくえて、人手不足からくる主婦農業という大きな仕事と責任とを肩持つことになりました。次に山

形景の現況を

農家主婦の労働時間

家事	七時間二十分
農事	八時間五十分
睡眠	七時間十八分
外出	十四分

其の他

十八分

二のようにして農家の主婦は休息の時間もなく無理に働くため健康を害し腰はまがり却会の婦人に比して十年程度老いて見えるのは当然でございす。又二のように農家の労働時間が多く、その上娯楽仲間が少いので農家の長男に嫁に行きたくないという年ごろの娘さんたちの声が高くなつてまいりました。そこで私たちは嫁さんの押かける村づくり、そしておかあさんたちも健康を保ちいつまでも若々しくきらいで長生きの出来るようその対策を考えるべきではないでしょうか。

働けど働けどわがくらゐに終にならざりじつと手を見る也

石川啄木の歌では「ございませんが、三百六十五日働きつづけても他の産業に従事する人々に比して、農家の暮しはなかなか楽にはならない現情のようでございす。

国会審議の結果農業基本法がようやく生れ我が国のこれから農政の進路が定まり農業経営の近代化、農業の生産性の向上、そして農業従事者その他の産業の生活水準の均衡といった目標に向つてスタートがきられたので、農業も今後大々的にかゝることとをございまいしよう。

私たちは今後どんなことに努力すべきか、農家庄活の計画化と合理化を図る。

一、衣生活の改善………の外出着よりも着着や寝具を念入りにつくる。

○嫁入支度の簡素化

二、食生活の改善

○県のキッチンカーの活用

○農婦の生活改善車活用

○農繁期の共同炊事励行

三、住居の改善
窓を多くして通風採光に留意する

四、家計簿記帳
収入と支出のバランスを考へて消費生活を営み、貯蓄をするよう心がける。

まことに簡単でございますが県内農家主婦の労働状況の一部を申し上げるは県の指導をお願いして私のつたない発表をおわります。

地域における婦人問題について

秋田 須貝フミ

私は、未亡人会、母子福祉協力員、その他多くの社会福祉、労働関係の役職をもち、関係方面とは密接なつながりがあるので、協働員として大変働き易い条件にあり、一カ月の相談も一五件位受けております。

これらの相談を通して地域の婦人問題について報告したいと思ひます。

相談で最も多いのは母子相談で、内容は

(一) 子供の就学、就労、転居の問題、結婚の問題、中小学児童の長欠問題、
生活保護、人間関係の問題、結婚の問題と大別されます。

(二) については、母子福祉資金の活用により全部の子供が就学し、また青少年育成委員の協力により長欠児童は二名を残すのみとなり、更に就労の問題については常に安定所、学校と連絡をとり努力しております。

す。転転の問題は給与や人間関係がらまうてゐるもの、関係者と相談し解決につとめたいますがなかなか困難です。(一)のうち母親の就労については子供がいるため家を離れられない、学歴がないなどの困難があります。郡内町村の公共施設の清掃、食堂、売店等をこれら婦人の働き場として開拓し喜ばれております。また婦人会等の集まりでこれらの人の就転申し込めを取り、カードを作成して求人のある時に連絡してゐます。生活保護については民生委員を尋ねることを嫌がる場合があるので、この面の指導と役場福祉事務所等への連絡を迅速に行なつてゐます。結婚相談は母子いずれの場合でも主として資金関係の問題であるので、結婚資金貸付制度の活用とあわせ、式の簡素化をも指導してゐます。このほか資金不払い問題、養育問題、宅地問題、年金の相談等扱つておりますか。出来得る限り相談にのり関係枝肉に連絡し結果をきくことにしております。これから大いに働き、社会のために役に立たせて頂きたいと思つております。

郡山地区に於ける婦人問題について

福島 村上 末

郡山地区と申しますのは東北地方の門戸である福島県の中央部に位置し、昭和に入ってから急激して参りました小さい工業都市である人口十万人郡山市を中心とする農村地域であります。この地域の婦人は教育の低い方が多く、子女を与えられましてその教育並に指導力が乏しく、(一)幼児は保育所か幼稚園にあすけはなしが多く、小中学生時代に模範、非行が目立つようになつて参りまして母親はその子供の行爲については何も知らなかつたり、全く放置なしといった態度、犯罪の少年に対しては唯おどくしてゐるだけで、自分の大切な子供を正しく認識し、愛と希望と忍耐とを最高度に発揮して最終的に子供が立派に

社会人として再起せしめ得るものが少ないし、又、街の悪童隊との関係がついて終つては唯悲しみ悔むのみで、過す術を知らない始末といったケースが多くあります。で、私共の地域では青少年を中心とした交友関係を整察、裁判官、調査官、保護司との共同調査を行い、その実態を正しく把握し、虞犯非行少年の街の不良グループとの縁を極力阻止すると共に、社会資源を開発して委託指導に努めることに努力して居ります。

(二) (4) 又、子供を有つ婦人を前記のような教養も低く、技能も身に付けて居ないために夫を失つたり、夫が肺病や、その他の事由で失業して終つて生活困窮し、やむなく刃鋳（和歌）婦人子供服の縫製、陸花月収三〇〇〇円位）や会社銀行の雑役婦、公衆電話のボックスの消毒、朝早くヒケ分位を月額七千円の収入等で、月額八千円位の収入で生活扶助料等を貰つてほんとにかその日を過せている人達はまだしもですが、持病で阻げられたり、子供が病弱者であったり、非行、犯罪の厄め社会の人々の冷たい目と処遇のため、就転することに計する自信を失つて終つて益々生活が窮乏になるばかりといった婦人もあり、離婚して子供を抱え、定転もなく母子寮に収容され、また生活扶助を受け寮母の偏見や本人自身の人生に於ける苦い経験から知らず知らずに性格化した自信喪失並に隣人に対する不信感を抱き、時にヒステリー受注で子供を咬傷したり、時にはノイローゼ気分になつて泣いたり、わめいたりすることもあり、近所の人々から怪訝がられたり相手にされなくなつて毎日母子寮外の知人を求めて歩き廻るようになり、然に仕事の手が付かず落付いて一定の転業に就けなくなつて居る婦人達もあり、福祉事務所のカースワーカーの方や、転安の方々ともその都度協議すると共に、本人に努めて働動出来る職場を見付けて固定した収入を獲得して貰うよう骨を折つて居りますが、未だ不十分であります。実際中学校在学中に、勤労の責を自覚せしめると共に、本人の適性を探知し、転業指導をして戴く事と、社会教育の担当機関である公民館並に小学校、中学校に就いて、従来の市民学校成人学級婦人学級等に於いて、特に字読経験者でない技能を身に付けていない婦人達の教養と転業指導を充分やって下さつて、気の毒な婦人達に安定した生活を営んで貰い

度う御座います。

尚、地区の善寛銀行の御協力や社会福祉協議会、ロータリークラブ、ライオンズクラブや地域の篤志家産の御理解と御協力を得て、働かなければ生きてゆけない婦人とその子供達の生活の保護指導に当ると共に、出来れば夜間三ヶ月間を定時制の婦人の技能講習会（絹物、手芸、料理、洋裁、生花、簿記、板技術、珠算、タイプライター、印刷等々の技能の修得の出来るようにしてあげたいと存じますので、労働省婦人少子局に於きまして、関係機関に呼びかけ出来るだけ早くその実現を計って戴ければ幸甚の至ります。

又、事務所から夫が帰ったその日から留守中その妻や子供に給与されていた扶助金が差引かれ、困窮して終うケースも生じますので、法務省、厚生省、文部省や自治省との緊密な連携をとって戴き、或る程度生活が安定する迄援助の手を緩めないよう取計って欲しいこともあります。更に、医師、弁護士の方々に特に困っている問題の婦人少年の保護、援助の手を延ばして戴けるよう、国に於いて話し合いをして戴けたらとも思われます。

地域（日立市）に於ける婦人問題について

茨城 石垣美根

一 婦人問題から見た日立市の環境

爆撃や艦砲射撃を受けて焼土と化した日立市が、関係者機関の活躍、市民の自発的立上りに依って何人とか今日の十八万工都となつたが、生活困窮者、道義の頹落、不良児、要保護女子、未亡人問題、老人の保護など数多くの問題が解決したとは言えない。むしろ増々増加の傾向にある。

二、協助員として現た日立市婦人問題

(一) 不良児を持つ母親の苦悩

イ、睡眠薬を飲む子供（大塚病院に入院数ヶ月で全快の例もある）

ロ、施設を出て来た子供の就転（女給、自動車学校入学等）

ハ、不良青少年の不能な性遊戯、妊娠中絶

ニ、売春行爲者を母に持つ子供の保護

（関係諸機関と連絡して又家庭と連絡して保護更生につとめる）

ホ、未成年児童の新聞配達

ヘ、継子との別居

(二) 夫婦間の問題

イ、刑務所を出る夫との離婚

ロ、妻を不倫と疑い虐待する夫との問題

ハ、夫の不倫との悩み

ニ、離婚問題

(三) 其の他

イ、嫁にいじめられる姑（話し合いに加って円満解決に努力）

ロ、姑に苦しめられる嫁

ハ、売春要保護女子の就転（女給、旅館料理やの女中、店員等に）

ニ、未亡人の就転家探し（肉係林内、その他を利用して）

ホ、家庭の主婦の内転探し（家政婦、パートタイム等に）

ヘ、警察の依頼を受け無銭飲酒女性の就転（世話をして出てきてしまう）

ト、幼稚園建設敷地の奔旋（市役所より借りてあげる）
チ、子供の世話になり度くない老人（老人ホーム入所）

三 以上の中の一例

酒飲みの夫が病死し、三男三女をかゝる貧困と戦い、長男は不良青年となり結核におかされる。二の妻は富裕な家に育ち、夫は課長までなつた家庭での出来事である。二の妻（母親）を或る大病院の伝染病棟の掃除洗濯婦に世話をし、長女は高校をやめパームを修業、次女は看護婦、三女は日立市収入税の家に住み込み高校へ、次男は技藝生に、三男は中学に、皆それぞれ真面目に働き、今は母親は大会社のクラブの管理人となり一応生活は安定した。長男は麻薬の害で今は脳病院に入院している。以上は協助力員として、相談を受けた母親の悩みに焦点をあてて記したのであるが、二の他に家政技術のモデル地区となつた住宅の主婦達が先き立ちとなつて、地域社会を明るくする為に婦人団体、オパール婦人会等と一緒に活動していることも付け加えておき度い。

地域における婦人問題について

石川 浅野 幾代

私は数年の間、婦人少壮室の相談員をさせて頂き、今年度から協助力員をお引きつけしました。相談員の経験を通して考えるのですが毎月協助力員から送られて来る相談票の殆んどが、地方の地区の民生委員や、保護士や、母子相談委員、調停委員等をしている協助力員に限られて、主婦である協助力員には、皆無だったことです。今度私も家庭に二もつて、協助力員をひき受けて見て、何か役立つ分野がないものかと思ひました。そして考えたことは、やはり自分の身近な環境内で、話し合いの空気をつくり、自然に受けあひあがる

共通な問題をとりあげて、それが家庭生活を守り、主婦が向上する方向に、持つて行くことゝ、困った問題には、相談所の窓口が、開かれてゐること等、知らせることだと思ひました。

私の町は古くからの土着の人が多く、それだけにすべてが保守的です。女の人の来りと云へば、地域の婦人団体に属した町婦人会だけです。それは県市の組織の末端として、上からの伝達に義務的にしをかい、負担金を納め、ゆすり合ひ押しつけあいで、会長を廻り持ちにして、形だけお茶をにごしてゐるに過ぎません。自由な気持ちで話し合うとか、共通の問題を、力を寄せ合つて、解決しようとか云う誘ひには、顔を見合せて引き込むばかりです。最近ではその婦人会も、町内会に従属して自主性を捨てました。婦人団体は高層ビルのように、完成した組織に成長し、それはそれなりに、社会的には立派に役目を果してゐると思ひますが、末端の人々は取り残され、感じを否定出来ません。これはあむから、私の町内だけの現象ではあるまいと思ひます。

そんな町鎖された環境では、話し合う場を持つことも、自分の困った事を、どこへ持つて行つて、どうしようとの意志も生れない人が多いのではないでしよつか。そこには外から窓をあけてやる手も必要じやないか、そこに私達家庭にゐる、協助員のもぐりこみ余地がないかと思ひます。お隣さんお向いさん、打ちとけて話せる雰囲気があれば、およその町内の人々の生活状態の、アウトラインはつかめます。それを手なかりに、はいつてゆけると思ひます。

地域における婦人問題について

静 岡 石 上 き み

戦後に強くなつたものは「婦人とクツ下」といわれる通り、婦人の地位は認められ地域における婦人活

勤めめざましくなつたことは事実である。

しかし、こうし反歩みのなかで、果してこれによいのかと思つてゐる。いくつかの同題点を拾つてみた。

最近の世代は、所得倍増とか、家庭電化、レジャーブームのかけ声で、生活様式も急激に変化し、物価の高騰は日常生活に影響を及ぼすことも多く、これらは既い面と悪い面を極度に表面化してきた。

二の現われの一つとして奥さま族は安閑としてはおれず、家計の一助としての内職が盛んとなっている現状である。

その反面、一種の内職に多くの人達が集つた場合など、賃金は低くなり、組合をもたない二の種のもものは、業者の思うままにゆだねられている。

実生活は主人の収入に比較して支出が加算するし、教育にしても、つきあひにしても、まわりをみる限り引けをとらぬようにしようとする母親の立場は苦しい。

一方、地域にみる婦人活動は、十数年後の今日マンモス団体ほど軟弱の傾向をたどつてゐる。大きな団体から小グループへの移行が特に顕著になり、グループの話し合い活動、実践運動も目に見えて盛んにはなつてきたが、内職で出席出来なくなる婦人や、出席者の頼まれもいつも同じような人達ばかりで、内容は良いにもかかわらず、何か行詰りを感ぜさせるものがある。

しかも地域のマンモス団体が総ぐるみで選挙運動に利用されたりして、選挙の公明化を欠くことさえしばしば見られる。

小グループが防組などの話し合いをもちても、地域団体は労働問題に弱く、参加しないばかりか、とみにきつう傾向にあり、防組といえはすぐに赤とか正と決めつけてしまふ。

だがおもしろいことには、自分の子女が就職する場合は、大企業しか選ばない。組合のない会社などは就職させたくないのが親心である。

いづれにしても、労働問題を扱う私たち協助員は、もっと地域団体と手を結び、現状と勉強を仕かすようにすることが急務である。

地域における婦人問題について

三重 伊藤了 録

桑名市には鋳物工場が多く、二の工場に働く婦人労働者の救も、又相當な数にのぼるものと考えられるが、これ等の家庭をもつ婦人達が家庭を離れて工場に働くことには種々の困難があり、又家庭的には色々の問題がある。その内題には子供の不良化、夫の不始末等あれども婦人自身の深刻なる問題があることを宛れてはならない。それは転場にあつて自己の立場を忘れて他の男性との関係をもつ指のあることである。男性（男子工員）の誘惑にかかつて家庭を忘れ、夫や子供を捨てて、若き男性と逃避行をするもの、或は脅迫せられて現在ある夫や子供を捨てて他の男性と同棲する者等、人道上懸念出来ぬ行爲が行なわれている。

事例を以て概要を示せば、桑名市七和の一家庭の主婦（四十才）であるが、夫、並びに子供二人計四名の家族をもつものであるが、市内の或る鋳造所に働きに出ていたら同じ転場の自分より七年若き転工より、あの手、この手で誘惑せられ果ては脅迫を受け遂に夫も子供も捨て、二の男性と同棲することになり、市内の此れ彼れと賣肉を利用して住居としていた。併しこの男性は在籍性があり、又嫉妬心も強くてこの女が疑わしい行動があれば必ず乱暴をして、撲る蹴るの暴力を振い、逃げたら殺すとまで云つているとあることに、この女性も自分より年が若いのと、危け者である等のことが解つて来て、遂に我慢し兼ね逃げ出す考えを起し、秘密の内に小生に相談をもちかけ、救いを求めたので二の向題が表面化し乍らである。

った、何とかしてこの女性を救うべく努力したが、乱暴者の前には打つ手もなく、警察にも協力を求めたが、思うようにはならず、警察にくれていだが、遂に彼女は失踪して終った。併し彼女の性格から推して必ず何処かに生存していることと思う。
其の他にも同じような問題があるが、之を略す。

地域における婦人問題

坂村婦人と福祉施設

町歌山 稻葉綾子

一、地域の概況

昭和三十一年三月、旧四ヶ村が合併し新町として発足、東西七km南北六km、七六二平方kmの水田を主とした農業地域、人口約一万人、世帯数約二、二五〇戸（昭和三十六年度調査、現在もほぼ同数、以下数字は同年のもの）

ノ、専業

五五七%

2、農業を主としに兼業

一九四%

3、農業従事した兼業

二四八%

現在ではノとスが入れかわっている。

一、坂村婦人の生活現況

米麦を主要作物とする当地域においては、農業人口の減少が一般に考えられる程、農業労働力の不足を感じない状態である。むしろ農業の機械化、農業の進歩、生活面の電化等生活の近代化によって生じ

る余剰時間利用の現金収入目的の労務、内率に何ける労働時間が問題である。

平均五反ほどの耕作面積所有の農家が各戸にテラー、脱穀機等を購入し、収支のアンバランスによる現金収入の必要に迫られ、そのための婦人の労働過重は、家事、育児、教養方面がおろそかになり勝ちである。

一、農村に未だ嫁がない問題

農村における当面の悩みは長男の嫁がないことである。現代の若い者にとって農村は何故魅力がないのか、農村婦人自体の進歩向上性の不足を先づ自覚せねばならない。

考え方の合理性、行動の積極性、もの事に対する自主性の不足は、旧家族制度の遺物でなく、抜けきれないが、主婦の労務、内面から生じる経済力の確立と、組織の啓蒙活動等により次第に解消しつつある。

一、農業の協業化、共同化

農家経済と労働力の収支実態を計算し得る農家婦人の能力開発の急務を知ること、農業経営者としての実権を握る婦人が、経済成長による収入の格差を縮めるための方法としては、農業の協業化、共同化によらねばならないことを一日も早く自覚することである。

農業基本法にもとづく官農技術を習得し、生活に計画性（たとえば家計簿の記入）をもち、力の集結による効果を産み出さねばならない。

一、施設の確立

農村婦人が現実の状態においては決して従的な存在ではないことを、関係自治体も一般社会も国家も認識して、農村婦人が安心して働けるような施設を設置してほしいのである。

保育施設、小中学校児童放課後の指導施設、健康管理施設、主婦たちの学習設備、栄養管理のための共同炊事設備等、農事担当者として重要な存在である働く農村婦人のために考慮が望まれる。

地域における婦人問題について

岡山 吉永存美子

岡山県下には現在専任補助員を除くと五十二名の補助員があり、人口百七十万の所に僅か五十二名の補助員で最善に効果を挙げようとしているのであります。今年度から婦人問題懇話会の一會員となつて此の会の構成メンバーである二十三種類の婦人団体代表者や三名の字識経験者となつたりを持つことにした。婦人問題懇話会は五名の運営委員と二十一名の全員会であらゆる婦人や年少者の問題と取り組んでいる。そこで補助員の立場を各団体に理解して貰うには、最も都合がよく又、これら団体から情報を得るにも好都合である。この集りを最近特に問題視されておりながら、解決の困難な問題を發しているものに保育所増設と三才未満の乳児託児所設置の問題がある。この事は働く婦人の問題としてだけではなく、一般婦人問題としても最近盛んに取り上げられて來ている。それは社会が一般家庭の主婦にも働くことを要求しているからであるが、家族構成が夫婦単位の小家族に変わってきたことによる人手不足も手伝つて、保育所の内容問題とか、増設問題がこのように声高く叫ばれはじめたと考える。又結婚後も働くか、家庭経済が保持してゆけぬという社会実情も手伝つて今後はますます保育所問題は一般婦人問題として残るのではなからうか。勿論社会状況の変わってきた今日としては当然な事であるが、手足りない社会と家庭が増加しつつあることの結果的実情でもある。又、婦人の経済観念が発達した当然の結果として社会への進出が二の手足不足の原因ともなつておるがその反面結婚生活と仕事の両立は無理なとして、結婚と同時に返郷を約束させる事業所もあつてこれらを比較しつつ考えると、働く主婦の責任範囲が余りに広く重いという事に気づかされるのである。そこで一般家庭の主婦達も安心して子供をまかせ得る保育所、並びに託児所の内容充実と増設が必要となつて来るが、この問題が各方面の婦人の声として出されるのも当然な事と云えよう。足りない保育所や託児所の数を増設するだけに止まらず、よりよき人づくりの願ひが働く母親達の最

大なる願いでもある処に二の内題の重要な課題が含まれているものと私は考える。二の願いと加味して将来の保育所やら、乳児の託児所が増設されるならば結婚と同時に仕事の内容が低下する等という非難もなくなるだろうし、一般主婦達も自信をもつて仕事に携われるようになると思う。社会的に多忙になつてきている多くの婦人のために、労働省婦人少年局でも何等かの援助の手をさしのべて、明るい解決方法が得られるようにして貰けないものであらうか。

地域における婦人問題

山口 天野 ヒデ子

戦後、引揚地として知られた仙崎港を持つ人口三万、山口県の日本海岸にある長門市と隣接の一郡を担当しております。古くから漁業、農業の町として長い歴史を持つた民情豊かな町。又近年は国定公園青森島や、国民保養温泉とじての懷山温泉、湯本温泉など、観光地として発展の途上にありますが、近代科学の粋を集め、日々めまぐるしく活動している山陽側に比べ、わずかに農水産物加工が主な産業と、余りにもおだやかすぎ、意欲にかけるものを感ぜさせられます。

開業医を主人にもつ私として、特に二の地は県下でも乳幼児の死亡率も高く、児童生徒の体位もかなり低く、レントゲン車等の集団検診の受診率も決してよい方ではない様です。農業も米麦が主で、農家でありながら野菜の採取量もごく少なく、家で獲れた菜種は賣協へ、卵は養鶏組合へと出荷し、金、正月、お祭り等の農閑期に余資をふんだんにとる等、昔ながらの食生活に甘んじ、衛生知識も乏しく、日々進み行く時代にとり残されるものを痛感致します。又最近は青少年の問題もかなり耳にする様になり、二の際是非、母親の自覚が必要な事をますます感じさせられます。

幸いこの地区の公民館活動は意欲的で又地域婦人会の組織もすっかりしている。之にこの問題を加味して頂くのが一番よい方法と見て、婦人学級に栄養教室を設けて母のある指導をして頂く事にしました。保健所、農業改良普及所の先生を講師に、基礎栄養学、献立、調理、計画栽培等、二週間、毎月一回各地区より二三名受講、帰郷しては地区の指導をお願いしています。食生活の合理化により生活態度にもはりが出て、希望に満ちた娘、娘、受講希望者の続出にうれしい起錨をあげる程になりました。

又今年度は多くの方の熱望により、青少年問題をとりあげ、児童相談所の先生に子供の内観しらすと題して順次進めています。

P、T、A、福祉事務所とも相談し、自分の子供を育てるのではなく、みんな、みんなの子供を育てようと、地域をぐるみで青少年育成推進会を結成、さつくばらんに託せる場、開ける場にしようと、6ミリ映画によるフィルムフォーラムも併せて行ない、話し合いを進めております。

二の様にすべて既成の組織によびかけ、微力ながら側面より活動を進めています。その力の及ばないこと、報酬はなくても、今二、三人の増員を切に望む者の一人でございます。

地域における婦人問題

香川 綾 フサエ

変ぼうする社会技術革新の今日の世相は、とかく物が重視され、真の人間性や教育が軽視されている現状である。

産業の地方分散の施策は私共の地方にも変動の余現をうけ、工場誘致による恩恵とあわせて、近郊の合併新市は、三ちゃん農業、背広農業となつて主婦の労働過重は目におまるものがある。そして婦人会では

新生活運動を提唱して適合い食生活改善や喪休日お祭りの一本化等を行なつて、主婦の労働通重を解消することに努めている。けれども買家に嫁ぐ娘はなかく少ない。

私共の住む人口六万余りの坂出市、そして又その中の戸数五十戸ばかりの町内で、表通りは商店街の二拾戸ばかり、裏通りは官吏・会社員・職人・工員・船員等種々の職種の世界である。

その主婦達の中、内職をするもの数多をのぞいておとこのほとんどの主婦は外に職を求めて出ているわけである。

一町内でこのような状態であるから、私共の校区では、三、四年以前迄は婦人学級や婦人会にも熱心に出ていた主婦が、今では就眠をしようとするものかなり多いわけである。

消費生活の内部的な問題も考えられるわけではあるが、とにかく家計の確立をめざして主婦達の努力は焼けられている。

変ぼうする社会構成の中にあつて、吾々婦人の果すべき役割の重大さは言をまたないわけ、家庭に人遣りがまかされる今日、母が教育者としての能力をもたねばならないということ、一応頭では考え、わかつていても、よほどの努力と意志を要するわけである。

つい二年ほど以前に、私の町内に向題少年が出て、子供会や子供会賛成会の有志の婦人等近所ぐるみで努力して、この中学二年の少年を明るく更生させることに、よりお互いに切実な勉強をさせられたことは、町内の主婦にとつてはぼうろであつた。中学を出て就職している彼に、時々道であい、にっこり笑つてぽつんと頭をさげて自転車走り去つて行く時、私はおぼろけかいはほほえみを感ずるのである。

次に、永い間下積みになつて家庭を職場として働いている婦人達が、健全に立ちあがつた事例である。それは当市において、八月三日に和裁をつみ会が結成されたことである。

洋服の整理と必要性、そして洋服は益々盛んに研究されることは当然で、私共の地方でも仕立てはスーツで一八つの円く二つつの円以上、ワンピースで一五つの円以上である。ところが和裁の場合、ウールで

二五つ円、おろ大端で三五つ円、四百円くらいである。

これでは何ごともわりきつて考える程い世代に、二の伝統的な薄い仕事を引き継いでもらえない実情である。特に和裁師匠を母親にしている場合など、その娘が半裁のみをして母親をなじる等の問題もあった。此の会発足にあたり、呉服屋さんその他の障害をのりこえて、一二五名出席のちとに目出たくむつみ会が結成されたのである。

私にも前もって二回ほど相談があつて、当日、市婦人団体連絡協議会長として、又助員として招待をうけ当日祝辞をのべさせていたゞいた。

又私は今、保護司として十七才の同題少年を担当している。

中流家庭の一人息子である彼が、突の両親を持ちながら、しかも経済的にも一応めぐまぬでいるといつのに何が原因であつたか。

担当事務官は、二の少年の補導は非常に困難を要すると云われたが、少年がめき／＼明るくなり、本来の此の安定をとれどもとせ、一応規則正しい生活が出来つつあることは嬉しい限りである。しかも父親は毎年度かくると胃が程度に悪くなり、仕事も休む日が多かつたのに、今年の夏は一日も休まないといふ少年の母は喜んでゐる。

私はいまでも二の少年との初対面の時のすねた形相、そして相手の顔をもとに見ない、そしてぶつきらばうなむお二り／＼い言葉づきを思い出す。今では友人までつれて、私の宅にいそいそとして訪ねてくる彼である。

母親が眞理の話をし、素直に生命の教育を行なうことにより、想像も出来ない岸せな家庭環境があらわれできた二の事例、

実は、少年の保護観察期間は三年であるが、今の状態が続くならば一年くらいで解除出来ることゝ担当事務官の明るい朗報であつた。

私共婦人はよい講話をきき、又書物を読んで見てもよかつたと感銘しても、案外で聞かぬおしみしてゐるのではないかと思う。

此のM少年の母は、神宗の御遺修の教えを素直に悟れたいものと思う。

民主的な明るい家庭、明るい社会、そして眞の民主政治確立をめざしてまじく多くの女性は、私もふくめて勉強が足りない。あらゆる機会をとらえてお互いに精進して行きたいと思う。

女性は、常に明るく健康で、今を大切に生かして、前向きな生活を心がけて行きたいものである。

相談業務に従事しての所感と婦人課への要望

長崎 佐々木 千ツ

事例 一

夫が怠惰享樂的で、家庭に全然収入を入れぬ。中学の子供が新聞配達をし、妻はその集金をしてやうと生計を立てていた。或日、仏壇にしまっていた集金の新聞代を、ごっそり夫が持出して逃げた。別に犯罪がみつかつてそのまゝ、刑務所に入った。それでも妻は夫を許す気があるが、子供は「父は家庭の敵だ。今度帰って来たら殺してやる」と云いきつて目を怒らせた。

家庭問題として相談を受けたが、妻としての本人の気持と、母としての本人の気持をどう調整し、息子の子供の成長のために本人はどう行動すべきか、簡単に離婚の動言も出来ず、協助員としても悩んでいる。現在夫は服役中なので時々留守家庭を訪問し母子を励ましているが、経験者の意見を聞きたい。

事例 二

夫はやゝ病弱である。妻は果廻連合社種込女夫婦で、日二万円近くの賃金を得るすぐれた働き手である。

同居している姑と、年上の小姑との折目が悪く離婚話までになった。夫婦間に男子も一人ある事だし、私はしばらく姑、小姑と別居し、夫婦から姑へいくらかの生活費を送り、相手方の感情の冷却期をまつことを提唱したが、妻の方は同意しても夫方が固さ入れず、遂に離婚したが、その後、その妻曰く「こうなればお金が私の味方です、いよいよ運命に働くばかりです」

事例 三

夫は長く療養所において、やっと退院できたが怠惰で勤労意欲なく、或る新興宗教に二りがたまって、妻の得た日雇賃金を消費し、而も極めて利己的で、たまたま貰った美味な食物など小さい子供がどんなに欲しかつても自分一人で食べてしまう。又常に妻子に乱暴を働く。

私はその妻の離婚の相談に同意し、家裁の調停を指示した。それは夫の不同意で不調に終つたが、妻は子を皆連れて別居を強行し、日雇に出、生活保護を受ける事にした。

事例 四

夫は十余年の療養中で入院中、妻はその間、実家の世話で小料理屋を経営している。子供二人が次々に入院、手術等して店鋪継続の資金に困っていたので、福祉金庫の生業資金五万円を借入れさせた。夫は療養所から情婦をともなつて帰宅した由。

婦人少年室協助員として約七年前種々の相談を受けて最も感慨に匹えぬのは、妻のけなげな勤労の陰に、夫の横暴無義遊惰の裏徳がひそんで居ることである。

かつて九州唯一の婦人刑務所を參觀した時、所長が「ここに入所した婦人、それ自身の性格が極悪で罪をおかした例は極く少く、夫が無頼遊惰の婦に、愛児の衣食を得る為、仕方なく悪をばたらいたと云う例が八の〇である」と云つた事を痛切に思い出さずにはおられなかった。ケース第二は嫁姑との中間に立つた夫が協調的でなくトラブルから逃避し、中立中正の立場で、其片面に立つて、家庭の人間関係、近代化

に努力する誠意と責任感に欠けたせいと云える。相談に来る嫁・姑不和の離婚問題の場合、多くがこんな形の夫と云える。

婦人少年局では、勤労婦人の男女賃金の差別待遇を是正し、労働環境や福祉施設等をよくすることに日夜力を尽されている事に敬意をおしまぬものである。

然し、家内工業、農業、小商店等の家族労働者としての婦人、或は一般家庭主婦等の労働の状況は如何か。雇用関係のない婦人の労働は、労働量と同間は却つて多大であつても労働価値は認められず、賃金は無く、定収入無き故に社会に於ても家庭に於ても常に主尊権なく、従属的地位に甘んじ軽蔑視されなければならぬのがこれらの婦人のすがたではあるまいか。人間を生産し、人間を形成する主婦の家庭労働が賃金にかえ難き尊厳・重大さを帯つところに婦人の地位を再認識するような、啓発活動を婦人課の指導の中におりこんで頂きたいと切にお願ひする。

併せて家族労働者としての婦人の問題も大切な課題と思ひます。

新生活結婚推進委員会を結成して 明るい町づくりに成功した実例

熊 本 泉 みほ

私の町では農協が保守と革新の政党内分れて二つ存在している。従つて、勤労婦人部が二つあり、それに地域婦人会があつて、婦人の生活は、ややこしい事が多かった。

「あちらの婦人部は旅行に行つたので、こちらも旅行しよう」とか、「あちらの農協は婦人部へ助成金を出したのに、うちの農協はけしからん」とか、「あちらは赤字でこちらは黒字だ」とか、「地域婦人会長

はおちらに厚意的で「こちらに冷淡だ」とか、人間関係はいつも競争意識とデマで、もちくちやにされるような気分になることが多かった。

昭和三十二年四月、その頃、親家は戦後の好景気時代に一度金手にやり出した結婚式が年々に金手になるばかりで、その止まるどころがなく、そのために親家は負債が多くなるという状況であった。而し親の心子知らずで、子供連は一生涯に一度の結婚式を立派な衣裳で飾りたくて、親と子の意見はいつも対立した。その時、たま／＼地域婦人会に、郵便局から簡易保険の共同基金が呼びかけられた。私共は話し合つて、その手数料を貯えて結婚式の貸衣裳をこしらへることにした。

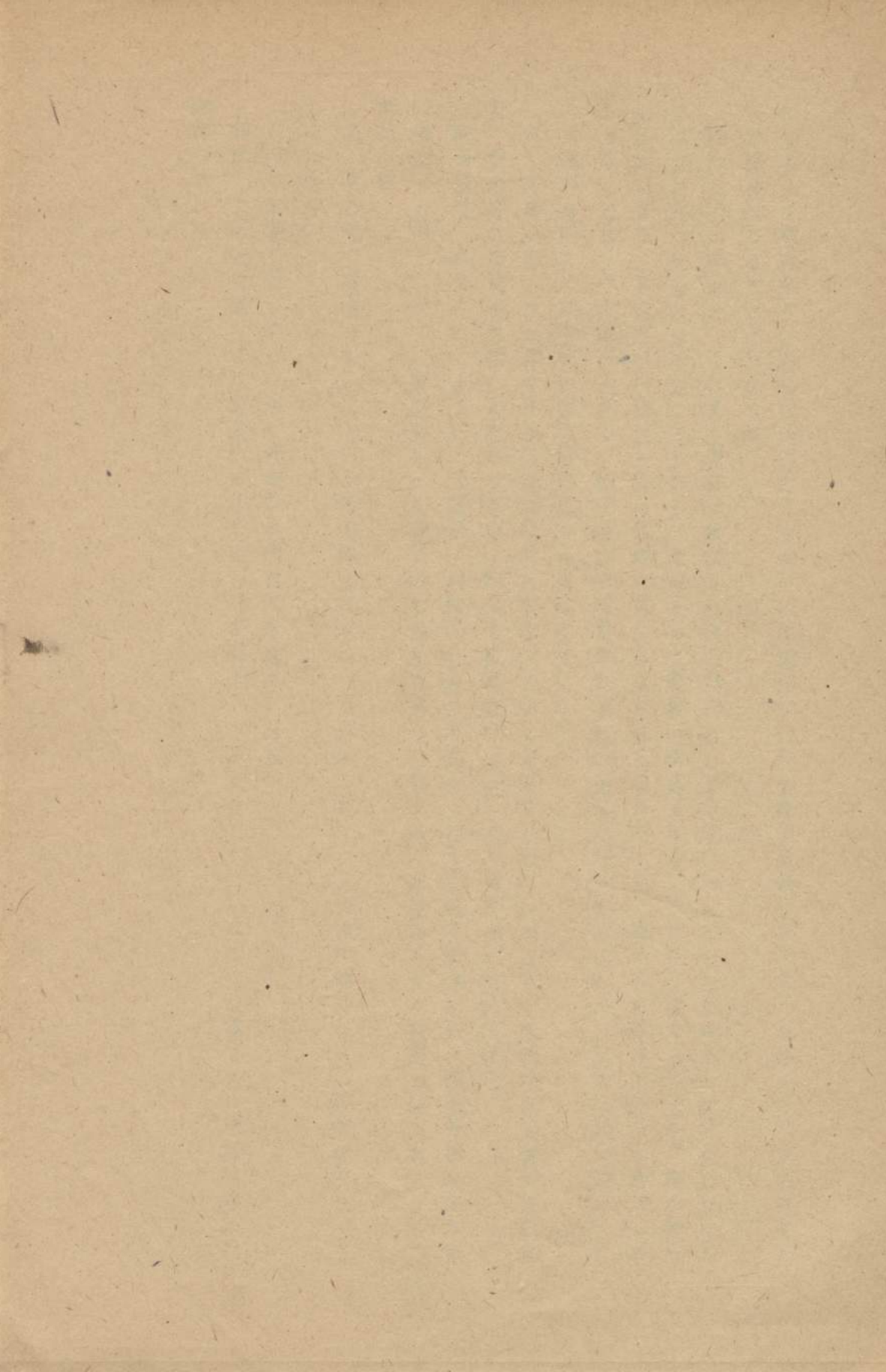
そして若い娘さんの喜びそうな高価なものを作つて安く貸出すことにしたので、結婚式の冗費が省かれて、その浮いた費用を若い人たちの意志に動いて新婚旅行に出してくれよう呼びかけた。

新婚旅行に出すことによつて、今迄長い間続けられた宴会が、万才三唱で散会と云う結果を生んで二重に負担の軽減となつて、家庭の人にも喜んでもらえるようになった。地域の人々の共通の悩みがこつして解決した。

又、その時、委員のメンバーを各種団体の長をもつて結成した。この事は団体相互の人間関係を つくる上に大きなプラスとなった。

行事を調整し合はせたら、今、円満な人間関係を保っている。

現在、これ迄に購入した衣裳代だけで百万円を超え、この秋はモーニングも二組揃えて利用者は年々に増加している。



年少勤労者の余暇の善用についての啓発活動の実態

岐阜 河野 まさ子

大中小工場、中小商店の多い大垣市には、中学程度の年少勤労者が多く、しかもその大部分が他国の人達で、その生活指導については、工場酒店経営者はもちろんであるが、市民全体が関心を持つ必要がある。

数年前から、健民運動の組織を設け、B.S、G.Sの育成、健民少年団の結成、青少年輔導センターの設置をして来たが、民主団体、特に婦人団体が中心となって、母と青年の集まる会を校区単位に実施し、工場青少年と母の集まる会を結成し、分科研究会、運動会などひらいて来た。ともすれば故郷を離れて少年少女達が横道へそれようとするのを母親がわりになろうとするこの会は年毎に成功をおさめている。

青少年教育の市民的なムードの盛り上りは、昨年児童文化センターの設立によって、一心の振興を持つことが出来たが、更に今年度は、青少年教育の殿堂ともいうべき専用館を建てることになり、宿泊、学習、スポーツ、レクリエーションの諸施設の完備をすることになった。実現の暁には、余暇善用の施設として多大の威力を発揮することとなろう。

中小企業の子少勤労者の、教育的な組織化は、社会教育上必要であるが、市民の目がいち等の子と違える見方に、いたわりとねぎらいの、あたかいものがなければならぬので、婦人が中心となって、小さな親切、小さな感謝運動を随所随所で展開することになっている。

新聞少年の扱いについても、使用主と、輔導センターと連絡をとって間違いないように注意を払っているが、現状までには思わしくないものは出ていない。

年少勤労者の生活指導は、市の発展に重大な影響を及ぼすので、工場、商店の従業者を対象とする市(県)立定時制高校の建設も計画され来年度には発足の見通しもある。

要は、行政当局の関心も大切であるが、その裏付となり、与論のバックアップをするための市民のムードづくりが重要であり、その点について本市の婦人団体は、常にその中心的な活動を展開して来たといえる。

母と子ども達、理論や学力や法的規制でなく、情緒のつながりを求めて、あたかい市民ムードによって、余暇の善用をなし得る方向へと、努力を傾けている。

〔一〕連帯感の助長

東海道五十三次徒歩で旅した時代から宇宙時代へそこには想像もつかない進歩発展の日日が積重ねられていく。だが我々の身辺を省みると衣食住を初め人間関係に至るまで暮らし方等皆変わらぬ様ざまな矛盾に直面する。

急激な近代化の波に押流され社会に適応できない者の姿「婦人問題とは社会の動きと婦人の暮しのくいちがいから起る問題」と言われるその格差は重要な意味あいをもつ大きな政治社会の動きもさる事ながら我々の心の置き処に根源をなしている場合が少なくない。中にも母親のものの見方考へ方をみるに非常に利己的で自己中心的存在であり事吾子の問題になると、連帯感など全くみられず最も大事な子供の良心をさへ喪失してしまう様な、盲目的非人間的な愚かしい母親の姿をみせつけられる場合が少なくない。

最近もいくつかの事例を通じて痛感させられた。こうした中にも又地域の人間関係のしくみに目をむけ、日常生活の不合理や悩みを力と合わせて解決にのり出すとするさやかなグループが最近地域町内会に芽ばえつつあり、幾度かその集いに招かれ協賛員としてさやかな助言を行なっているが母親の連帯感を助長することに努めている。

〔二〕売春問題について

売防法が施行されて七年、京都は祇園、島原を初め多くの赤線地帯が廃れてから、東山安井地区その他白線青線と型をかえて尚吸血鬼は、ヒモ、場主として生きている。一般地域の住民も売春に対する強い罪悪感はなく、全国調査にもみられるように必要悪と考えている者も多い。近時相談に応じた事例をみても児童、思春期の子をもつ夫婦でも生活に困ればからだを売る事を強要する夫が場にいる。又、母親が娘に売春を強要の弁にいわく、「お前には生まれた時から食うに困らぬ様にちゃんと道具がつけてある」と笑い話の様だ悲しむべき実話が身近にある。又町内会の役員で柄藪奉養をしていものが売春組織の手引をしたり許し難い事態を発見し婦人少年室、婦人児童課、婦人相談所等と連携をとり「映画と講演」の会を催すなど売防の趣旨を最速で展開、地域社会に売防の意義普及啓蒙に努めた。（別添当時の資料添付）

其の...
...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...